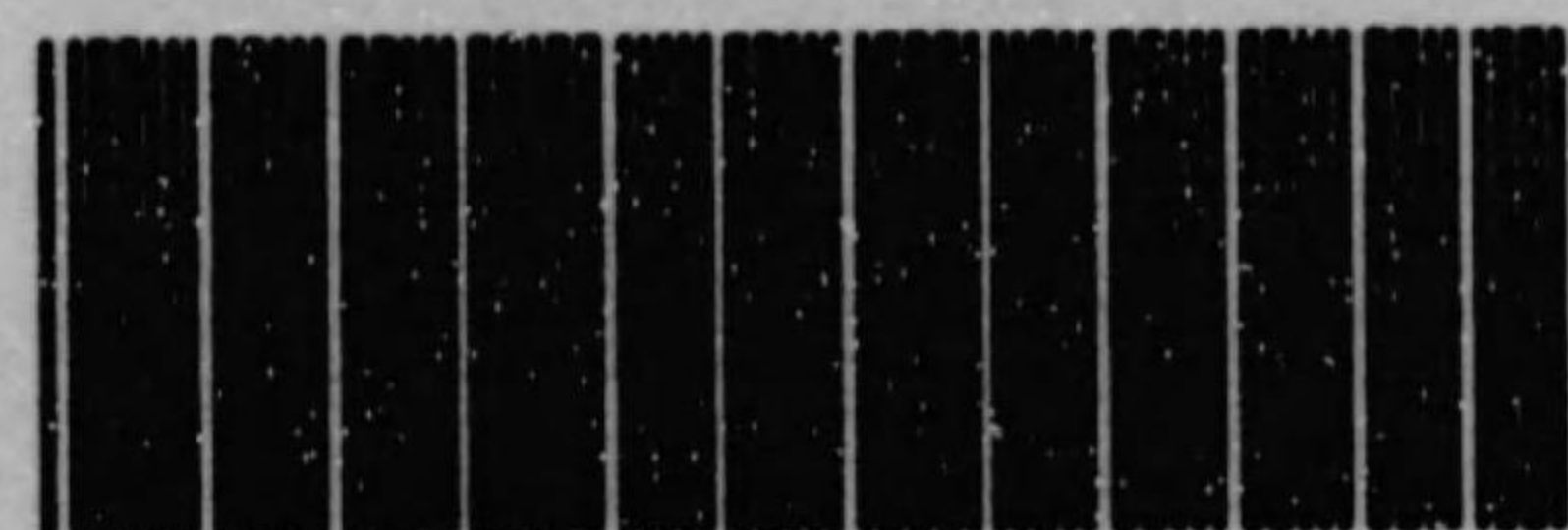


651  
17



\* 0003071000 \*

0003071-000

651-17

国家改造計画綱領

中野正剛・著

千倉書房

昭和8

ABA



9.2.14



5

中野正剛著

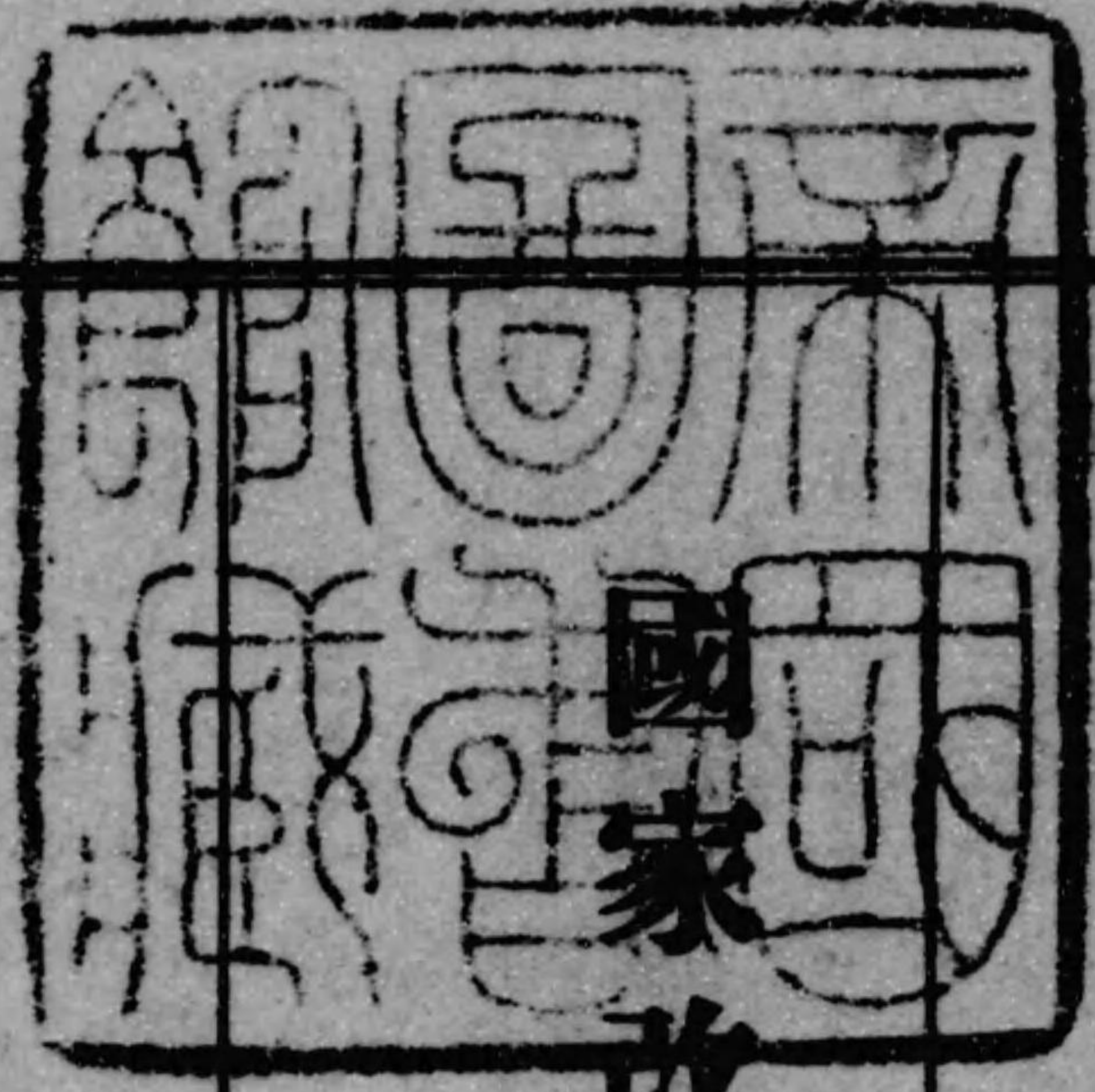
國家改造計畫綱領

東京 千倉書房版

東方叢書第一輯



540



中野正剛著

國家改造計畫綱領

— 東方會議書第一輯 —

東京・千倉書房版





651-17

## 凡例

- 一、東方會は筆者が嘗て東方時論を出せし時、之を中心として設けられたる會合である。
- 一、當年の同志今は四散して、或は大官となり、或は江湖に流離し、或は鬼籍に入る。當年の荒木中佐は今日の陸相であり、幹事役たる小村欣一侯は志を抱いて既に地下の人となった。
- 一、爾來縷々として一脈を傳へし東方會を振興して舊盟友と新知已とを會す。これが今日の東方會であつて、本體は一個の文化及び時勢研究の團體である。



一、東方會に籠居して、友人同志の言説に傾聴し、嚆下して自己のものとなし、吐き出して一個經世の言となすもの、此の國家改造計畫綱領である。

一、東方會は何處までも文化團體であつて、政治及び社會運動其他に關與しない。文武官民中の志を有する者、相會して正義廉恥の交をなすものである。

一、東方會の研究は四方に發散して、順次に天下の共鳴を得ば、或は東方會と別個に國民運動の指標たるべき東方改造同盟を組織するかも知れぬ。

一、本綱領中、最も肝要なる教育改造方針を缺く。特に之を重要視して、他日別に天下に問ふつもりである。

一、最後の言説三篇、筆者の心境と新興日本の外交指導原理とを明かにし、綱領に盡きざる所を補ふものである。

一、若し天下の要望により、亞洲を聯ねて東方改造同盟起らば、本篇は實に其の飛檄である。

昭和八年十月二十二日

東方會にて

中野正剛



# 目次

凡例	一
緒言	一
第一、非常時宣言	九
第二、政治機構の改革	一五
第三、統制経済機構の確立	二一
第四、金融の國家統制	二九
第五、商工業の國家統制	四〇
第六、農業の國家統制	五三
第七、財政政策の改革	六四



第八、労働の國家統制……………七二

第九、日滿統制經濟の確立……………八〇

労働運動綱領……………九五

我世界政策の指針……………一一九

強力政治の概……………一七五



世界的大非常時局の渦中に於て、日本を繞る東亞の状況は、特に險惡なる形相を呈し、併も國家の内部には積弊の鬱結する所、益々大衆の不安を増大し、人心漸々にして、大いに動かんとするの勢がある。乃ち我等は是れ内外の深大危機を確認し、之を克服すべき國民的陣容を整備せねばならぬ。然らば難局の試練を積極的に活用して、内部的に一大改革を斷行し、以て外に飛躍日本の颯爽たる英姿を現出するは今日の急務ではないか。

切迫せる情勢は、端的なる行動を要求する。今の時に於て政治的立論



は、直ちに其の行動的責任を伴はねばならぬ。併も立論が行動性を帯び来る時、有らゆる障礙に衝突して、幾多の危険を生ずるを免かれない。是に於てか平常無時の際、不義の威福を逞しうせし既成政治家等も、今や口を緘して言ふ所なく、偶々言ふことあるも右顧左盼して、見苦しくも行動の責任を回避し、只管、危難の身に及ばんことを恐れて居る。是れ實に自ら職責を抛つて、世の侮りを招く所以である。思ふに今日の政治は眞劍勝負である。併もその眞劍勝負は既に錐せり合ひ迄押し詰められて居る。眞に政治を行はんとする者は、危難を冒して、生死殺活の境に立たねばならぬ。それを憚るほどならば、没落するか逃避するか、寧ろ公的生活を解消するがましである。唯一片秋々の心、不敏の才を以て、猶ほ國家多事の時に沈黙するに忍びない。是に於てか一編の「國家

改造計畫綱領」を提出し、將來に捲き起らんとする國民運動の標幟となす次第である。

非常時國策はユートピアの圖案とは、斷じて別個のものでなければならぬ。所謂國家改造の急務たることが、一般人の常識となり来るや、諸多の改造意見は、往々にして世人の眼を驚かすものがある。併も其の多くは匿名によりて發表せられ、怪文書の性質を帯ぶるに非ざれば、行動の責任を伴はざる計畫の遊戯である。本綱領は極めて大綱を示すに過ぎないが、筆者と同志とが、思ひを惱まし、議を凝らし、非常時匡救の對策として、不拔なる行動を籠めたものである。特に筆者の名を明記せる所以のものは、危言以て世を驚かし、其の責任を回避するの陋態を卑しむが爲である。



國家改造計畫綱領は、百年の大計を理想に描き、悠々として爐邊に閑談するの題材ではない。緊急一日も遷延を許さざる焦眉の經綸を、最も端的に披瀝するものである。さりながら緊急なる實行案たることは、斷じて斷片的思ひつきの排列たることではない。個々の應急對策の背後には、之を貫く一脈の指導原理あり、分解して時務となり、綜合して體系をなすものである。而して之を要約すれば實踐的國家統制經濟の確立に外ならない。

國家統制經濟の何物たるかは、是に冗言の違がない。之に實踐を冠するのは、日本の現段階に即して、實行性を裏書せんが爲である。世務を解せざる公式的卓上理論家は、之を以て不徹底なる妥協原理となすであらう。併しながら時運切迫の際、政治は直ちに實務である。行動に具現し

得ざる卓上理論を羅列するは、飢民に對して畫餅を饗するの類である。又社會の動向に眼を開かざる保守頑迷の徒は、之を以て過激突飛の提案となし、却つて世の不安を煽るものと誣うるであらう。併し、斯の如きは眼を閉ぢ、耳を抑へて、彼の雷撃を避くるの類であつて、其の愚や實に憫笑すべきである。

大東京市の中樞に路面を掘り起さんか、そこに諸般の地下施設あり、一舉に改造の手を下さば、全東京の文化生活は直ちに脅威を被るであらう。乃ち全東京を擧げて、他の曠野に移さざる限り、所謂徹底的改造を即座に行ふことは不可能である。外患を克服するの實力を消磨せずして日本國家の改造を行ふは、文化生活を中止せずして、大東京市を改造するの類である。乃ち緩を慮り、段階を追ふの已むを得ざるものがある。



今や日本國家の現状を直視せんか、煽惑せる情弊は、彌縫するに由なく、往々にして潰裂四出するの勢を呈してゐる。乃ち非常時國策の妙用は病弊の最も極まれる個所より手を下して、こゝに革新の端緒を求むるにある。第一難を克服したる壓力を以て、第二難を突破し、諸多の應急對策を綜合して、根本的改造計畫に歸一するにある。是に於てか計畫綱領は實際上一氣に全部的に行はれずして、部分的に、成し崩しに、綜合集成せらるゝを免かれないであらう。況んや避け難き客觀情勢に對應して、十步前進せんが爲に五步退却することあり、或は十里の進軍を計畫して十五里長驅するの已むを得ざる場合もある。吾等の計畫は一時に全部を盡すものに非ず、又之のみを以て満足するものに非ざるは萬々である。但し本綱領は我等が實行政策の大綱を盡すものであつて、之を大局よ

り見れば破壊なき建設の計畫書である。固より舊情弊を除きて、新情勢に應ぜしめんが爲、部分的破壊に續くに部分的建設あるは當然である。若し夫れ全然舊組織の破壊を厭ふならば、それは體の新陳代謝を遮つて其の老朽斃死を招くの類である。日本若し活きんことを欲せば此の變革を避く可らず、日本若し經濟的生產力の中絶を好まずとせば、本綱領を姑息なりとして、卓上理論の幻影を追ふべきでない。是に行動の責任を明白にして、此の一編を愛國的同胞の前に宣言する。



五、吾等はこゝに我國民運動の綱領を發表するに當り、先づ世界的一大非常時が吾等の眼前に嚴在し、且つ刻々に危険性を増加しつゝ、ある大勢を宣言する。

## 第一、非常時宣言

一、吾等はこの、に我國民運動の綱領を發表するに當り、先づ世界的一大非常時が吾等の眼前に嚴在し、且つ刻々に危険性を増加しつゝ、ある大勢を宣言する。

説明 此の非常時はその廣がりに於ては全世界的である。而してその危険性は現に世界經濟會議の悲惨なる失敗以來、所謂ブロック經濟政策の強行によつて、益々深刻化されつゝある。けだし列國が相率ゐてブロック經濟政策に汲々たる結果、國際的敵對



關係は必然に激化し、従来の國際依存に基調を置いた傳統的自由主義は全く崩壊し、世界恐慌の全體的恢復は愈々絶望的となつた。

世界各國は——特に英・米等の指導的大國に於てさへ、今や國際關係の親善を犠牲とし、只管獨自の國家的恐慌打開策に努力を集中しつゝある。併しその効果に至つては概ね樂觀を許さず、徒に無計畫なるインフレ化によつて目前の投機的昂奮をひき起すか、然らざれば慢性恐慌を愈々深化せしめつゝあるに過ぎない。

かくて、今や世界各國の指導的識者の腦裡には、例外なく未曾有の非常時意識が浸透し、資本主義制度崩壊の切迫が痛感せられるに到つた。

此の經濟的大非常時は究極するところ、社會的、軍事的非常時に迄轉化すべき性質を有して居る。否その顯著なる大勢は現に進展しつゝあるを確認しなければならぬ。想ふに斯の如き世界の經濟的及び政治的分裂狀態は、遅くとも二三年後に於て最も險惡なる大危機にまで、昂進するであらう。けだし、プロツク化と、インフレ化との政策

はその内面的行き詰りから、世界的第一大反動恐慌を召來するを免れぬからである。現に成熟せる第二次世界大戰の潜在危機は漸くにして成熟するのみならず、總て大爆發するの避くべからざる狀態にあるではないか。

### 二、世界的非常時の混亂渦中にありて、日本を繞る東亞の狀態も亦最も切迫せる大非常時的緊張を呈しつゝある。

説明 日本は滿洲事變以來、政治的には世界的孤立の危險なる國際的位置を甘受しつゝあり、經濟的には爲替インフレの支持の下に海外市場を精力的に蠶食し、以て競争國の深甚なる恐怖と敵愾心を惹起せしめつゝある。かくて、今や英國を始め海外列國の對日暴壓政策は急展開し、日本の輸出進路は到るところ遮斷の浮き目に遭遇してゐる。



たゞ目先きには、軍事工業の擴張と、若干の匡救工事によつて、所謂財政インフレの状況を寧樂してゐるが、既に輸出工業には深甚なる不安の權相が現はれて居る。又財政インフレの好影響も、全く局部的且つ一時的たるに止まり、之を以て非常時危機の根本的打開を期待するが如きは、實に思はざるの甚しきものである。況んや對外國關係に於ては、國際聯盟脱退の善後處置未だ完了されず、かの南洋委任問題の如きも遽からず再燃すべく、對支・對露・對米外交上の無氣味なる不安も、之が緩和を期することは容易の事でない。加ふるに、宿年の懸案たる海軍協定の更新も目途の間に迫りて、既に米・英兩國の精銳なる大擴張計畫の發表を傳へられて居る。勢ひの激するところ、日本を繞る國際危機はいかなる急展開をなすやも測り難い。しかもかゝる切迫せる非常時局にありて、傳統的經濟原理は凡百の組織的匡救方策を提供し盡した擧句、悲愴にもたゞ完全にその時代錯誤振りを曝露するに止まつた。資本主義の無力は同時に一切の既成政黨の無力である。

かくして、全國民は深甚切實なる不審と不安とに陥り、恐るべき社會的大動搖の兆候は歴然として、眼前に顯はれて來た。かの五・一五事件の公判が開かるゝや、都市と農村とを問はず、全國民の熱烈なる同情は被告の志士的心事に注がれてゐるが如き、以て人心の激變を語るものでないか。

三、日本は如上の大非常時に適應すべき非常時國策を痛切に要求してゐる。吾等は一切の姑息と退嬰とを排し、適切なる積極的、飛躍的實行綱領を提供し、敢然として、その實現に全力を傾注せんことを期するものである。

説明 非常時局には必然に非常時的國策が要求される。而して今や既存原理は上述の如く、夙に無用の長物化してしまつた。しかるに、之に代るべき適切、有効なる積極



的指導原理は未だ提供せられてゐない。これ實に潰裂四出の前途であり、建設手段なき破壊力の激發を誘導する所以である。かゝる空虚なる浮動的焦慮状態は、鞏固なる責任觀を伴ふ適切なる指導によりて、一日も速に解消されねばならぬ。

吾々は悲壯なる五・一五事件の被告の熱情に對し、建設的指導原理を提供し、天下に向つて改造の指標を掲げねばならぬ。是に於てか吾々は一大非常時局の嚴在を正確に認識し、此の前提に立ちて、合理的大轉換を促進するに足るべき新興國策の確立と實現とに、全力を傾注するの必要あるを提唱せざるを得ない。

## 第二、政治機構の改革

一、一切の既成政黨政治と絶縁して、強力内閣を組織し、合法的的手段により、獨裁的に非常時國策を斷行すべし。

説明 吾等は原則として民主主義の原理を否定するものではない。しかし、現下の非常時局は恰も戰時状態に於けると同じく、確乎たる所信を以て、變革的政策を斷行するの必要を痛感せしむる。是に於てか非常内閣は先づ以て已に黨土の髓となれる既成政黨との絶縁を前提として乗り出さねばならぬ。



周知の如く現下の政黨政治は全く腐朽せる資本主義の傀儡となり、共に公正なる國民的利益の振興を談ずることは出来ぬ。これを淨化し、これを善導するが如きは、目標の間に迫れる危機に適應する所以でない。是に於てか已むを得ず、暫く議會の多數に拘束されざる強力なる國民内閣を組織し、或る程度迄獨裁的手段を用ひて、非常時國策を確立遂行せねばならぬ。所謂「目的は民主にあり、手段は獨裁」なるもの。應處置としては、断じてこれ以外に求むることは出来ぬ。

二、一定年限を限り、議會より非常時國策の遂行に必要な獨裁的權限を内閣に委任せしむべし。

説明 國民内閣の要求は必ずしも議會政治の否定ではない。併し議會は時局の重大なるに鑑み、政府に對し必要なる一定の獨裁的權限を委任することが必要である。議會

は固より從來の如く召集せられ、開會せられて、政府の施設を監視すること勿論である。

かゝる委任に一定年限を附せるは、非常時局が解消し、議會の構成がその改造により、國民一般の信頼を恢復するに到る日を豫期するからである。

委任すべき權限の内容は豫め規定することは出来ないが、後述の如き非常時國策の遂行は緊要なる範圍に止むべきは言ふを俟たない。

かゝる權限の委譲に就てはイタリイ及びドイツ等の極端なる先例は言はずとするも、現に民主國米國に於てさへ廣範圍に亘つて實現されてゐる。而して今や大統領は此の途によつて、劃期的統制經濟政策に邁進しつゝある。非常時日本に於ても亦此途に依るの外打開の進路は見出さるゝことは出来ぬ。

三、衆議院議員選舉法を改正し、職業代表に重心を置き、從來



の一般代表議員數を總議員數の一定割合に減少すべし。

説明 衆議院の組織上職業代表に重心を置く所以は、衆議院を以て眞に國民の利益を代表し、激濁たる活動國家の立體的縮圖たらしめんとするにある。けだし、從來の一般代表制は地域的平面的代表なるが故に、其の働きは極めて消極的であつて、そこに活動的的代表作用を發揮する事が出来ぬ。これは是非其根本的に變革されねばならぬ。而して、職業代表は商業者・工業者・農業者・労働者・會社員・官吏・軍人・教育家・宗教家・新聞記者・辯護士・醫師・技術者・藝術家等より選出することとし、商業者・工業者・農業者・労働者・會社員等の代表に就ては、更に之を種類別又は地方別とする。但し職業代表と雖も、必ずしも完全に民意代表の實を擧ぐることは出来ぬ。乃ち之が補充的意味に於て、地方別による一般民衆代表を併せて承認する。一般民衆代表の選舉方法は、大選舉區制を採用し、比例代表制の如く一定の政黨の存在を前提とする制度を排

斥する。而してその議員數は衆議院議員總數の一定部分、例へば五分の一を超えざる程度に限局すべきである。

四、行政機關の合理化を計り、中央各省及地方府縣の根本的廢合を斷行し、根本國策の遂行と、行政事務の簡捷とを期すべし。

説明 徒に情實のために無用の行政機關を存続せしめるの弊に就ては今更ら冗言するを要しない。過剩機關は單に冗費を膨脹せしむるのみならず、相互に分裂せる立場により、對立敵視して、組織的統制政策の遂行を阻害するの弊に陥り易い。吾々はしかし、機關の廢合、整理のみを以て満足してはならない。その經營をして、所謂官僚的弊風を脱却せしめ、有能なる科學的原理に立脚せしめねばならぬ。例へば鐵道及び通信兩省の如きは當然單一化されて交通省となるべきも、更にその經營方式



を可及的實業風に合理化するを急務とするが如きである。  
殊に力説すべきは、從來の各省大臣が區々たる部分的立場に拘はれて、國家的・綜合的立場を忘却し、往々にして偏狹なる行動に出づるが如き弊害の顯著なりしことである。今や大非常時局に際し、國策上劃期的革新を斷行せんとするに當り、各省を廢合して内閣を有力化し、大臣は眞に國務大臣としての立場に居り、大處高處より國勢の大本を決定し、以て非常時國策の徹底的遂行を期すべきである。

### 第三、統制經濟機構の確立

一、國民的生産力の組織的發展をもたらし、一般國民の福利を増進する見地に立ちて、資本主義を矯正し、強力なる統制經濟機構を確立するを急務とする。

説明 從來の自由放任制度の下にありては、經濟活動は過大資本の私的營利に支配され、國民的福祉の如きは全く蹂躪されてしまつた。乃ち現に見るが如き深大恐慌は召來され、且つその打開は絶望視されつゝある。蓋し現存經濟機構の下に於ては、國民



的生産力は個々の企業家の偏狹なる打算によりてのみ操縦され、綜合的、公共統制は全く缺けて居る。是に於てか重複と浪費と偏寄との積弊を長ずるのみならず、購買力は少數富豪の囊底に貯蔵されて、一般大衆の爲に動員されず、従て過剰生産と過小消費との悲惨なる對立をもたらしつゝある。これ實に傳統的經濟機構の致命的缺陷であつて、社會的不満と不安の由來する所である。乃ち此の病弊の根源に向つて矯正の手段を講ずるのでなければ、國民的生産力の發展も、上下一致の國民的結合も、到底之を期待することは覺束ない。

國家は今日まで此の事實に直面して、彌縫的に若干の統制方策を試みて來たが、その畢竟目前の應急的療法たる觀念を脱却し得ないから、組織的發展の見地から大觀してその結果を擧げることとは不可能である。是に於て現に見るが如く、當局の尤もらしき倫理觀念も、滿天下の失望と嘲笑との間に葬られつゝある。乃ち吾等は此の根本的缺陷を矯正し、國民本位の統制經濟機構を確立するの急務を強調せざるを得ない。

今や、國家の統制經濟原理は自由放任の舊套を脱却して、綜合的統制の新時代に躍進すべし重大轉期に立ち入りつゝある。

即ち吾々の主張の要諦を約言すれば、國民全體の生活向上の見地より、國家に依る全面的統制を實行し、一方過大資本の横暴を抑へつゝ、他方生産力の合理的推進を促し以て新興日本の大飛躍を誘導することである。

二、國家統制經濟とは個々の經濟企業の國營乃至國家社會主義化に非ず。個々の企業經營は原則として、民營を許し、國家は須らく國民的經濟力の動向に就て、計畫的指導を加ふべきである。

説明 國家の統制經濟と個々の企業の國營とは混同してはならぬ。吾々は個々の企業



に對しては私的經營の濫用たる活動振りを尊重する。これを國家統制の美名の下に官僚化し、固定化せしむるは、斷じてその至愚なるを確信する。

國家の統制的任務は、個々の營業上には存しない。國家は産業經營の上に、その私的長所を發揮せしめつゝ、その弊害を抑へ、且つ國民的生産力の發展方向を、綜合的、計劃的に規律せねばならぬ。

然らばその統制方策は如何。之を具體的に詳述することは後に譲るが、現下の日本としては、民間の自治的産業團體の健全なる發達を促し、之を政策の對象として、公的利益の見地より適宜に誘導するを以て、最も現實的方法なりと信せざるを得ない。此の點に於て、現に米國政府の實行しつゝある統制方策は他山の石とすべきである。

三、統制經濟實現の爲には、所謂經濟參謀本部を設置し、特に次の三種機關を以て之を構成すべし。

イ、經濟國策決定機關（經濟國策審議會）

ロ、調査、立案及監督機關

ハ、顧問機關（顧問委員會）

説明 統制經濟は綜合的、全體的見地より、適切なる指導方策を實行するものなるが故に、その任務を擔當すべき新機關の設置を必要とする。これ所謂經濟參謀本部制である。

吾々の提案に於ては、

イ、經濟國策審議會―先づ以て、常設的なる、經濟國策審議決定機關を要求する。内閣の閣議は略ぼ之に照應するものであるが、吾々は必ずしも全閣員の列席を必要と認めず。又閣外よりも若干の有能なる人物を動員する必要があるを認め、こゝに閣議以



外に此の機關の設置を可とするものである。

ロ、調査立案及監督機關——此の機關こそ經濟政策本部の眞價を發揮せしむべき中樞機關である。

こゝには完全なる調査設備を有し、内外の政治的、社會的及經濟的、狀態を絶えず組織的に調査して、經濟政策審議會に報告するのみならず、審議會の依頼により又は自發的に——重要國家上の立案をなして之を審議會に提出すべき責務を負はねばならぬ。

従來の政府も各省毎に幾分之に類似する調査機關を準備して居たであらうが、それらの關心は大抵目先の彌縫的對策に限られ、且つ特定の限局された立場の拘束を免れなかつた。

今吾々の提案するものは、綜合的立場に立ち、且つ大局的、組織的見地を把握しつゝ、非常時局の打開策を立案する機關であるから、自ら特異なる存在である。

此の調査、立案機關は自ら政策を決定することはないが、絶へず國策審議會を刺激し鞭撻し、且つ誘導すべき積極的發動を任務とせねばならぬ。従つてこの機關の最高幹部は常に國策審議會に列席し、且つその幹事役を務め、會議を適切に進展せしむべきである。

此の機關に特に監督の責務を負はしめることは緊要である。即ち、新政府策が如何なる現實の効果を奏しつゝあるか。若し、その成績不良なりとせば、その理由は奈邊にあるか。又如何に之を改善し、更に新政策を發展せしむべきか。——かゝる關心に基づく監督は、継続的なる統制計畫の遂行を有能ならしむる爲、一月も怠るべからざる任務である。乃ち斯の如き重要任務は之を立案機關の双肩にかゝらしむるを以て、最も適切なりと信せざるを得ない。

ハ、顧問委員會——民間の専門的部門の代表者、——殊に企業家、勞働者、學者、専門研究者等を以て顧問委員會を組織する。調査、立案に當つては、必ずこれら民間



専門家の夫々の立場よりする要求を聴取し、検討し、又彼等の専門的意見を充分利用する必要がある。此の顧問委員会は部門別に別たれる。

現に米國で實行されつゝある復興機關は、これに該當する顧問委員会が設置されその意見はかなり尊重されて居る。

吾々は此の種の顧問委員会が有効に専門的立場を代表し得る爲に民間の産業團體、労働團體、消費者團體等が、一日も速に完備されんことを切望する。

## 第四、金融の國家統制

一、金融機關の全部面に亘り、國家は強力なる統制權を把握し、非常時對策の有効なる遂行を促進するを緊要とす。

説明 國家の統制政策を完全に遂行せんが爲には、先づ金融機關の中樞を確實にその支配權下に把握せねばならぬ。現下の資本主義組織に於ては少數の大金融資本團が、その私的營利の立場から全經濟力を左右するは必然の勢である。若しこれを其の儘放任せんか、統制政策は寸歩も前進することは出来ぬ。現に米國の統制政策は金融機關



の黙々たる反抗のために行詰りに陥りつゝある。イタリイでも國家は夙に大銀行を支配下に置き、ドイツに於ても、銀行國營の政策に進出しつゝあることは大に注目に値する。

吾々はあらゆる統制計畫の先行條件として、金融機關の國家統制を強調せざるを得ない。これに成功して後始めて、經濟參謀本部の建設計畫は、有効且つ圓滿に實行に移すことが出来る。

二、強力なる金融統制機關を常設し、金融部所の全面的統制を有効にし、以て信用量の増減及びその合理的配給を規律し、經濟參謀本部の統制計畫を促進せしむべし。

説明 吾等は、必ずしも、金融機關の國有化を要求しない。それは國有の非なるがた

めではない。否、吾等は金融業務の公益性と、その獨占化の傾向とに徴して、國營乃至特殊の半官半民的經營化の利害を考慮するの必要を承認する。

但し眼前の對策としては、かくの如き飛躍的變革を絕對緊急事とは認めない。先づ民營の基礎に立ちて徹底的統制方策を實行し、その成績を徴したる後、國有案を吟味するも敢て遅しとしない。

吾等の提案は金融監督制度の徹底的改造を第一とし、併せて金融機關自體の合理的組織化を斷行せしむるにある。

こゝに提案せる新金融統制機關は大藏大臣自ら之を主宰し、一般經濟事情に精通せる専門家を以て、その部課を構成せしむる外、顧問委員會を設けて、民間の産業及び金融部門の代表者、學者、専門家等の意見を聽取するものとする。

此統制機關は全國の有らゆる官民信用機關に對し、信用の供給量を増減するの權機を握るのみならず、その配給に對しても國家的統制を加へ、以て非常時國家の順調な



る發展を促進せねばならぬ。又此の機關が金融機關の營業狀態に對して、常に周到、嚴密なる檢閲權を持つべきは冗説を要しない。

三、日本銀行の機能は政府の金融統制機關の規律に強く從屬せしめ、積極的に産業振興の助成につとめしむ。日銀の參與制は廢止す。

説明 中央銀行の機能を能ふ限り政府より獨立せしめんとする傳統的原則は、今や時代遅れとなりつゝある。けだし、一方に政府の積極的經濟統制が進むにつれて、中央銀行との協働は、最も緊密なるを要すると共に、他方政府が政黨政治の積弊を脱却する以上、政府と中央銀行との分離を可なりとする傳統的理由は稀薄となり終るべきである。

かくて、日銀の政府に對する從屬性は著しく緊密化する。日銀は特種銀行の債券のみならず、場合によつては一般民間銀行の株式等をも買上げ産業振興計畫の發展に積極的に助力すべきである。政府の金融統制機關自體に民間代表の諮問委員を附設する以上、日銀に參與制を設くる必要は自ら消滅する。日銀と金融統制官とは殆ど合體し、大藏大臣（金融統制官としての）と日銀總裁とは異體同心の實を擧げねばならぬ。

四、大藏省預金部、逓信省簡易保險、及び國有財産整理資金等に亘り、國有資金の管理及び運用は、之を金融統制機關の統制に屬せしめ、可及的、公共事業の建設に利用すべし。

説明 英國自由黨の提唱は此種の國有資金の運用機關として國家投資局を特設し、積



極的に公共事業及び資源開發計畫の遂行を促進せんとするにある。若し此種の國有資金が不足せば、非常時開發公債を發行せしめて、充當の途を打開すべしと主張されてゐる。

日本にあつては嘗て政黨政治の悪作用の結果、無計畫なる放漫救済に國有資金の濫用を敢てし、現在では、その反動として消極退却をモットーとする預金部運用委員會が出現した。運用委員會は、義に懲りて膽を吹くの例に漏れず、たゞ運用の確實性のみ拘束されて、非常時意識を白眼視するの有様である。吾等はこの國有資金をも當然金融統制機關の支配下に開放せしめ、周到なる計畫の下に大に積極的活用を行ふを緊要とする。

國有資金に過剰を生ずる場合は、公債又は特殊銀行債への應募乃至貸付けによつて、民間事業計畫の助成をも行はしむべきである。

五、金融統制機關は一般金融（民間銀行、保險會社、信託會社等）に對して營業方針上の指導をなすに止まらず、授信業務に就て勸告と拒否との權限を待たねばならぬ。必要あれば、一定の保證を條件として授信を強制することも可能とすべきである。

説明 一般民間の金融機關に對しては、營業の自由は存続せしむるも、その營業方針は決して私的營利の見地にのみ放任せしむるものでない。金融統制機關は絶えず全國資金の運用狀態を調査し、非常時國策の遂行に順應すべく、その主流の動向を指導し調節する必要がある。即ち國策上銀行の援助を望む事業に對しては貸付、投資の勸告をなし、一方國家的見地よりその擴大を好まざる事業への授信は之を拒否すべきである。強制命令權は成るべく行使せざるを旨とするが、特殊の緊要事業にして、國有資





金が潤滑せる場合とか、民間金融機關に遊動資金が特に過剰なるに係らず、金融業者がその投資勸告を肯せざる場合には、已むを得ず強制権をも行使すべきである。但しかゝる場合には國家は一定の損失保證をなすも、貸付利子は極度に低率のものたらしめ、暴利を抑制するは勿論、かゝる貸付の公益性に立脚して、其の利潤を強く制限せねばならぬ。或は之に代る一法としては、別に國家が特殊銀行を設け置き、此種の貸付けは特殊銀行の債券發行を以て處理せしむる代り、民間銀行をして強制的に此の募債に應せしむることも考慮せらるべきである。

六、一般金融機關の専門的分業化を計り、合同強化を促すと共に、特殊銀行を整理、廢合し、之を半官半民の組織となして、金融統制の遂行に便ならしむべし。

説明 一般民間銀行は大體短期金融機關を主務となさしめ、長期金融は特殊の専門銀行に委譲せしむべく、其の分業化を確立せねばならぬ。

短期銀行は五、六の大銀行を除く外は、國家統制の下に若干の地方的大銀行に合同強化せしめ、その内部を徹底的に整理することを急務とする。

特殊銀行としては、

イ 貿易銀行（爲替銀行）

ロ 工、礦業銀行

ハ 農業銀行

ニ 拓殖銀行

ホ 中、小商工業銀行

の數種の専門銀行を設け、資金の性質に應じて分業的に系統化し、夫々全國的の單一合同體となすべきである。而して之等はいづれも半官半民組織とし、國家の保證の下



に、低利の非常時復興債券を發行する權限を與へる。此の種の債券は日銀に於てマールケット・オペレーションの對策とすることを得せしむる代り、極力民間銀行及び信託、保險會社等をして應募せしむるやう勸告すべきである。此等の特殊半官銀行こそ、金融統制官の手足となりて、經濟再建設のために活躍せねばならぬ。

七、國家が金融授與に就て援助したる企業は、その債務を完済する迄、その經營及び利益處分に就て、國家の周到なる監督に服せしむ。

説明 國家より金融の援助を受くる事業は、國家的見地より有用缺くべからざるものなるを以て、その健全なる發展は特に重要視されねばならぬ。且又、國家は金融仲介

者としての責任上、充分なる監督と指導をなし、經營方針の過誤なきを期すべきである。此種の事業は必然に公益的性質を帯びること大なるを以て、その利益處分も國家の規律に服するを要する。

かくて、始めて、國家は金融の統制と、生産力の健全なる發展とを、緊密に結合せしめ得べきである。



## 第五、商工業の國家統制

一、アジア・ブロック建設を目標として、日本産業の發展方向を國家統制の下に轉向せしむ。

説明 プロック經濟政策は抽象理論としては非難の餘地あるも、現實の世界的な大勢としては之を否定するを得ない。吾々は此の世界的プロック化傾向が、今後も尙ほ持續し、發展し、速からず、國際競争の爆發を召來する恐れありと信するが故に、日本としても急速に、計画的に、此大勢に順應する新轉換を斷行し、積極的の發展の途を打開せんことを主張する。その具體的方策は冗説する迄もなく、日滿兩國プロックの完成を基礎とするアジア・ブロックの建設に外ならぬ。

二、プロック政策は退嬰的孤立主義に非ず。日本民族の積極的發展の合理的基礎を建設するものである。

説明 プロック的大勢の下に於て、現に國際通商は極度の萎縮に陥りつゝあるも、日本は決して孤立的退嬰を甘受すべきでない。海外市場の開拓と確保とは一日も怠るべからざる要務である。日本は未だ重工業及び高度精密工業等の近代産業技術完成に就て先進國に譲る所のものが少くない。隨て此の分野に於て新興的精神を發揮して精進すれば、彼等との競争に於て大に發展の餘地が残されてゐる。



しかしながら、プロック経済治下に於ては、海外市場が政治的實力によつて獨占化され、閉鎖されつゝあるが故に、輸出至上主義に基調を置く傳統的産業政策は、放棄されねばならぬ。けだし、輸出至上主義を貫かんとすれば、結局資源と勞働力とを法外なる安値を以て海外に投賣りするの危險あるのみならず、折角大なる犠牲を拂ひて獲得せる市場も、他國の政治的手段を以て容易に奪還さるゝの虞あるのみならず、一朝有事の際、海外市場は遮断されるものと覺悟せねばならぬ。吾等は是に於て現下の非常対策としては、寧ろ先づ國內に於ける大衆購買力の擴大に着眼し、内部的に充實したる國民市場の建設を企圖せねばならぬ。プロック政策は畢竟かゝる内充政策に、合理的なる地域的基礎を與へんとするものであり、切迫せる國際政治の大危機に善處して積極的飛躍の土臺を築き上ぐる根本方策に外ならない。

### 三、均整ある國民的生産力の發展を目標として、各種の合理化

施設を實行し、特に大衆必需品及び軍需品の自給を計るべし。  
又我國がアジア・プロックの指導國たる位置に鑑み、重工業、機械工業、及び化學工業等の振興を促進すべし。

説明 國際貿易の自由と世界平和とが存在する限り、國民生産力の片寄りは敢て憂慮すべきでなかつたかも知れぬ。併しプロック経済が國際政治危機を強化する現状に於ては、之は實に關心すべき大缺陷となつて来る。吾等はこゝに自給促進の見地から、生産力の再編成を強行し、均衡宜しきを得たる新編成を完成するを急務とする。而して今日特に重要視すべきは大衆必需品及び軍需品の自給である。  
更に又、アジア・プロック内諸邦の緊密なる相互依存を合理的に確立する見地から、日本は滿、支兩國より、豊富なる資源及び原始的生産物を自由に輸入し、彼等に向つて重工業、機械、化學製品等の高等科學工業品を提供し、アジアに於ける經濟文化の



急發展を誘致せねばならぬ。それがため、日本は紡績業偏重の時代より脱却し、重工業及び高度科學工業中心の高度産業國へと積極的轉向を急がねばならぬ。如上の生産力の計畫的轉向を企圖するに當つては、特に轉換に伴ふ生産施設の合理化を斷行せしむべきは言を俟たない。

四、生産力の轉換と合理化とを遂行する爲、事業の擴張及び新設は國家統制下に置き、又既存設備に對しても整理乃至禁止を命ずる場合あるべし。

説明 一般的に言へば企業行爲は私的自由となすべきも、現下の如き非常時局に於ては計畫的再建設を有効に遂行するため、國家機關をして生産力の發展動向を綜合的に監視せしめ、刺激と抑制とを加ふることを意つてはならぬ。かかる如き生産力の増減

の處理は次項に述ぶる同業組合との協働の下に行ふを最も便宜とする。

五、國家は一般重要産業に對して、業種別に組合を組織せしめて之を公認し、周到なる監督の下、此の組合をして生産、販賣を規律せしめ、更に進んで原料の購入、資金の調達、會計制度及び労働條件の標準化を行はしめんが爲、共同的合理化統制の任に當らしむ。國家は必要に應じ、自ら組合規約を作成し、その實施を命ずる權限を有すべし。

説明 一般重要産業の何たるかは、こゝに概括的に述べ難きも、現行重要産業統制法の適用對象たるものよりは、著しくその範圍を擴大されねばならぬ。國家統制の方式



を少しく具體的に説明すれば、

- イ 産業統制機關を産業省（商工、農林兩省）を中心とする新省）内に設置し、之に民間の代表者を以て組織せる顧問委員を附設すること、金融統制機關の場合と同じ。
- ロ 業種別組合は企業家の自發的規約作成に俟つものなるも、統制官は顧問委員の意見を徴したる後之を公認し（——必要あらば適當の修正をなす）公認組合として前企業者を強制的に加入せしむ。企業家が適正なる規約の作成を怠り、統制官の修正に服せざる場合には、統制官は自ら規約を作成し、その實施を命令すべし。
- ハ 組合は生産及販賣を統制（生産設備の増減も組合の統制に屬せしむ）するも、本質上獨占的釣上げを目的とするカルテルとは嚴肅に區別されねばならぬ。組合の使命は有効なる需給の調節と取引の合理化とにあるのみならず、又同業者の公正なる競争の維持、助成を目的とするを以て、少數大資本團による、中小企業の壓迫の如きは他く迄取締らねばならぬ。このために統制機關は周到なる調査、檢閲權能を持

たねばならぬ。同一の趣旨に基き組合は更に原料購入、金融調達、會計制度及勞働條件の標準化等を始め、技術の研究、經營及び市場知識の吸收、景氣観測、宣傳等に關する合理的的共同施設をも管掌することを得べし。

- ニ 統制機關は經濟參謀本部の計畫遂行の見地に準據して、組合の指導と監督となす任務を負ふ。組合相互間の紛争、組合對組合員の紛争の如きは、統制官の公正なる裁断によつて迅速に解決されねばならぬ。

本 組合は統制經濟治下にあつては從來の偏狹なる獨占利益追求の觀念を脱却し、半官的公共機關の如き見地より、國家的利益の促進に邁進せねばならぬ。此の目的に背馳する場合には罰則の適應を受くることとする。

- 六、公益事業及びトラスト化されたる事業は、なるべく半官半民の事業となし、然らざる場合にも特に嚴重なる取締を加へ、



勞働條件、最高利潤率、及び販賣價格の公定又は認可制を施行すべし。

説明 一般産業に於ては經營上の自主權を尊重して、私的企業の長所を存続するを建前とすべきで有るが、公益性大なる事業及びトラス特的獨占企業に於ては、公的利益の擁護の爲に特別嚴重なる國家統制を必要とする。その目的を有効に遂行し、且つ經營能率上の要求を満足せしむるには、特殊の半官半民企業化を行ふより外に良策なし。こゝに言ふ「特殊の」とは從來の官僚臭味濃厚なる經營様式を排し、専門家に依る實業風の新經營法を採用するものなるを意味する。半官組織の場合には勿論、然らざる場合にも、此の種の企業はその經營方針の決定及びその實行に就て、國家の嚴密なる指示と監視とに服せしむべく、勞働條件や販賣價格の公定制乃至許可制の外、最高利潤率の制限（但し設備改善及損失補充の爲の積立金は一定限度まで之を承認する）も必要である。

七、中小商工業の爲には合理化の外に、健全なる中産階級支持の見地を加味し、適切なる統制方策を實行するを要す。

説明 日本の産業構成上、中、小商工業の意義が極めて重要なるは論を俟たざる所である。然るに近代大資本化の趨勢は中、小商工業の存在を著しく窮迫化し、此種放任せば没落の一路を辿る外なき非運の下に迫詰めて居る。この現象は後述する農家の窮迫と同じく、主として中、小商工業者の無統制に歸せねばならぬ。即ち産業組織の合理化見地よりするも、現状のまゝ之を放置することは許されない。吾等は更に進んで、健全なる中産階級の擁護の見地からも、特別の國家統制を緊要となすものである。然りと雖も中、小企業の劣等經營を、單純なる感傷的動機から保存することは絶対に



排斥せねばならぬ。こゝに於て國家統制の要諦は、

イ 一方に大資本團の不當なる壓迫を嚴重に抑制して、中、小企業に公正なる競争の餘地を確保せしむると同時に、

ロ 中、小企業の組合組織を整備し、合理化し、その機能を強力なる國家的援助の下に強化、擴大し、金融、原料調達、技術の合理化等の共同施設を充分徹底せしむるにある。

ハ 且つ中、小商工業者の轉業は國家の機關の援助の下に極力圓滑に遂行せしめ、その當業者の苦痛を緩和するやう處置すべきである。

これ等の方針は一般重要産業の統制と一見大差なきが如きも、國家の積極的援助及指導を徹底化する點に於て、著しき程度の相違を示すものである。且つ又、重要産業の場合には、統制の主點は寧ろ獨占化の抑制にあつたが、中小企業の場合には合理化、促進にあるべきである。

八、プロツクの、國家統制政策に順應して、貿易上の統制も促進されねばならぬ。而して其の統制は商品取引のみに極限せられず、爲替の管理及び資本逃避の取締りも、須らく之を徹底化すべし。

説明 プロツクの統制經濟治下に於ては、一方に海外への投賣的輸出が抑制されると同時に、他面に於て海外品の輸入防止も亦緊要となつて来る。けだし、適切なる外品防遏をなすに非ざれば、國內大衆の購買力増進政策は擾亂されるを免れない。外品防遏には關稅増徴も一法ではあるが、寧ろ輸入統制（制限）が望ましい。貿易バランスの確保のためには、相手國との相互主義的特殊協定が必要である。而して統制を合理化する機關として、貿易業者の組合化が奨励されるべきは言を俟たぬ。



爲替の取引は半官的的特殊銀行に統一させ、貿易統制官の監督の下に規律すべきである。積極的建設政策は、必然に資本の海外逃避的傾向を發生せしめるであらう。乃ち之は嚴格に抑止されねばならぬ。

## 第六、農業の國家統制

一、日本農業の根本的短所たる過小農制を改革し、農業自治組合の體系化を中心とし、之に適切なる國家統制政策を實行するを以て、根本的方針とす。

説明 農業經濟の特殊の窮迫は、何よりも、その無統制によつて激化されつゝあるがそれは畢竟、日本農業に顯著なる過小農制に起因する。それ故大局的見地に立脚する改革は農業經營の組織化を外にして考へ得られない。



農業の組織化は先づ以て農業者の自治的組合の整備から始まり、國家はそれを誘導し助成すべきである。

農業者の自治組合といふも、従來は種々の異色系統のもの雜然として錯綜し歸一するところがなかつた。乃ち之を單一系統に統一し、その體系化を計らねばならぬ。即ち部落農業組合に始まり、町村、府縣、全國組合へと聯合式に編成される一連の自治組合制の完備がこれである。

國家は統制政策の對象として組合制を公認し、農民を強制的に組合に参加せしめ、その機能を擴大強化せしむべきである。

最下層組合たる部落組合は、専ら生産上の實行體たるべし。肥料器具等の必需品の購買、産物の販賣、及金融等の處理は、寧ろ上層組合たる町村、府縣組合に委任するを可とする。國家はすべてかくの如くして、合理的なる自治共同組合の新形成を助成促進すべきである。

## 二、農業部門に對しても合理的なる生産計畫を確立し、獎勵と賠償の方法によりて、その有効なる實現を計るべし。

説明 經濟參謀本部は農業自治組合と協力して生産計畫を樹立し、需給關係の調節を計らねばならぬ。生産計畫の實行は、獎勵と賠償とによつて之を誘導する必要がある。生産計畫は單純なる價格的上げの限産計畫とは本質を異にする。それ故共同經營による。最近技術の利用とは抵觸するものであつてはならない。無統制なる過剰生産は固より除去すべきであるが、技術の進歩による生産費の低下は歡迎されねばならぬ。要諦とするところは、技術の發展を基調としつゝ、しかも生産費の均衡を適當に統制する如き組織を建設するにある。

## 三、農村と都市との均衡を計るため、國家は次の諸方策を實行



すべし。

イ 主として租税體系の變革によつて、農村の過重負擔を軽減すること

ロ 義務教育費の國庫負擔

ハ 工業の地方化助成及び副業の獎勵

ニ 文化施設の大都市偏重を匡正し、地方開發を助成す

ホ 農村必需品、特に肥料等の國家統制をなし、その獨占的鈎

上げを除去し、低廉なる供給を計ること

ヘ 過剩人口の移植民を援助、獎勵す。

説明 現恐慌渦中において農村は都市に對して一層大なる苦境に陥り、負擔の過重に

壓迫されてゐる。これを匡正するの途は、先づ以て農産品の値上りを計り、工業品との値開きを解消せしむることである。併しこれは前述の農業組合化、及び生産計畫化の樹立に俟つこと多大である。しかし、國家は都市大生産者の農村必需品に對する獨占的搾取を嚴重に取締り、肥料經濟の如きは、國家管理を徹底的に斷行して、その低廉なる供給を計らねばならない。

國家は更に農業金融に就ても積極的援助をなすを急務とするが、それは次項にゆづることとする。租税體系を變革し、就中、地租の減免を斷行するは最も焦眉の急務である。義務教育費の國庫負擔も同様である。

⑥ 従來の經濟政策は國際主義の商工立國方針を偏重し、農村文化の助長、地方開發施設の發展は兩却され勝ちであつた。この弊を除去し、農村生産力の經營を計り、副業を助成し、地方性ある工業の還元を促進する等、何れも農村民生上の急務である。



四、農業金融を整備して、高利の負擔を軽減し、又、舊債整理組合を徹底的に普及せしめ、場合によつては、元利支拂の延期を認め、又、大膽なる切捨てを前提として、國家に肩代りせしむべし。

説明 農村の積極的再生には先づ以て舊債の整理が一般的に斷行されねばならぬ。この整理は既に整理組合の實行によつて、その緒に就きつゝあるが如きも、吾々は更にその徹底的普遍化を要望して已まぬ。かくて一日も速かに農家經營の自立の基礎が確立するべきである。

吾々は金融統制の項に於て述べたる如く、農業金融銀行を半官半民の一大機關に統一し、國家統制の下に積極的操作をなさしめることを要求する。此の農業銀行は國家の低利資金及保證付きの債券發行によつてその信用資源を充實し、負債整理の進行を計らねばならぬ。

農村經營の自立の計畫が成立するまで、場合によつては元利支拂の延期も認めざるを得ないが、能ふべくんば大膽なる切捨てを前提として、國家機關への肩代りを促進すべきである。このためには強制權の行使も承認されねばならぬ。云ふ迄もなく、負債整理は農民の再生を目標とするものであるから、徒に、銀行其他の一般債權者を救済して、負擔を國民の双肩に轉化せしめざるよう警戒せねばならぬ。

五、農村救済を以て、單に地主階級の救済に墮せざらしむるため、特に耕作權の確立を急務とす。



説明 國權を以てする土地兼併の抑制及び自作農化の徹底的獎勵（國家は相當の價格を以て、土地の強制收容をなし、之を自作農創設のために再分配する必要あり）は勿論のこと、一般に耕作權制度の確立は、工業方面に於ける勞働權の確立と相俟つて、一日も速に實現するを要す。

この制度が確立されざる限り、土地利用の合理化は行はれない。例へば租稅輕減の如きも地主救済に墮するばかりである。

六、米穀統制に就ては合理的生産計畫化を、基礎とすべきも、さし當つては、最高及び最低價格を公定し、販賣制度の特許別を設くべきである。又その實行を可能ならしめる爲に、國家の買上げ及び外米、植民地米の輸入統制を斷行するを必要なり

と認む。

説明 米穀統制も根幹は生産計畫化でなければならぬが、さし當つては政府の買上げ及び外米、植民地米の輸入統制を急務とする。

生産計畫化は府縣・町村・部落組合へと割當て、計畫實現の爲に米作地を他の目的に變更するの必要ある場合には、之に對して賠償を與へねばならぬ。而してその財源は内國消費稅に求むべきである。蓋し今日の所謂米穀過剩は、寧ろ大衆の窮乏に因る購買力の不足に基因するものなるが故に、米産の制限よりは、先づ一般國民の消費力増進を考慮すべきである。

市場統制としては、農業者組合自體の保管制度の獎勵も重要であるが、國家の管理も亦狭く可らざる施設である。

米價公定は當然生産費及び合理的農業者利潤を基準とするが、實行手段として最高最低



價格を公定し、それ以外の他の取引を禁止する。こゝに價格に最高最低を定めて、一定の落差を認むる所以は、之を他國の實例に倣するも、一定の範圍内に於ける自由取引によりて、自然的配給の妙用を取入るゝことを適當なりと認むるからである。

七、蠶絲業は將來發展の餘地大ならざるに鑑み、之を適當に制限すべく、同時に内部組織の合理化を計り、特に輸出上の統制を促進すべし。

説明 蠶絲業は世界的大勢より見て、現在以上の大なる發展は期待することは出来な  
い。従つて一時的利益に眩惑されて、偏に増産設備をなすが如きは、慎重に取締らね  
ばならぬ。しかし、同時に現在の原始的過小經營形態は、之を共同給合化せしめ、蠶  
種の生産及配給は國營となし、又製絲と養蠶との利害を融合せしむるため、絲價と蠶

價との比率公定をなすべきである。

特に輸出業務は半官半民の販賣會社を設け、輸出先の米國と協定して、彼我双方の利  
益を保證するに足る完全なる統制を斷行すべし。現在の輸出業者は手数料による代理  
商となすべし。



## 第七、財政々策の改革

一、統制經濟政策の確立を促進する爲、國家は須らく積極的財政計畫を樹立すべし。

説明 従來の財政政策は國家財政收支の均衡のみを主眼として運用されたが、それは國家の統制的任務の劃期的擴大を要する非常時政策としては、全く妥當性を失つてしまつた。國家は劃期的經濟建設を積極的に誘導し、助成せんとするのであるから、財政の大膨脹も亦已むを得ない。而して財政の膨脹は支出の使途が合理的建設であり、

その建設助成方法が健全である限り、少しも憂慮するに足らぬ。乃ち吾等がこゝに「財政は財政の爲に存せず、國家的生活發展のために存在する」といふ新原理を提唱して已まざる所以である。固よりこれは放漫なる傳統的やみくも政策とは根本的に軌を異にするものである。

二、現下の財政膨脹に應ずるため、非常時公債の増發を認むべきも、その條件は努めて低利とすべし。

説明 後述する如く租稅體系の根本的變革は、固より緊要事なるも、眼前巨額の經費を負擔するには公債増發は實際上之を避けられない。公債發行に就ては漫然たるインフレーション化を恐るゝ者あるも、其の憂慮は畢竟使途の統制によりて除去せられ得べきである。公債増發は之を合理的にして適切なる建設計畫に充當すれば、却て國富



の分配を合理的に調節し、國民生産力の向上を促進することが出来る。いはんや、現下の如く、深大恐慌の渦中に没入せる状態の下に於ては、産業を振興し、公共事業を起し、失業者を吸集するために、大いに積極的支出をなすは、特に緊要事なりと信ぜざるを得ない。更にいはんや、國防充實の寸刻も猶豫すべからざる今日の情勢に於て、又、滿洲開發事業の一日も等閑に附す可らざる現状に於て、主計吏的なる赤字抹殺論をなすも、それは斷じて時務に應ずる所以でない。但し公債發行の條件は極力低利となし、所謂戰時愛國公債的性質を佩びしめることが必要である。若し應募者乏しきときは、大金融團に應募シンドケートを組織せしめ國民の愛國心に訴へ、適當の割當應募を可能ならしむべきである。かくの如き積極政策は必然に金利の低下を促し、一般産業の蓄積整理を助け、新規企業を刺激する効果を生すべきである。但し、此の政策が進行するときは結局、高利の蓄積所有者は打撃を被むるべきも、彼等は主として大金融資本團乃至金利生活者なる

が故に、改革途上幾分の負擔を課せらるゝも已むを得ないであらう。

三、租税體系を根本的に變革し、貧者の負擔輕減と、富者への重課を斷行し、以て生産企業の負擔を輕減すべし、且つ脱税行為に對する嚴重なる取締を實行すべし。

説明 租税系統の變革に就ては、就中次の諸項を考慮すべし。

- イ 所得税及相続税の累進率を高むること。
- ロ 地租、營業收益税、家屋税、戸數割を減免すること。
- ハ 高率の財産課税を新設し、又、一定額以上の不勞所得に不勞所得税を課し、新經濟政策により特に利益を受くるものに對しては特別利益税を新設し、又時代の風潮に應み特別奢侈税を設定すべし。



二 非合法脱税のみならず、合法的脱税をも嚴重に取締り、例へば保全社制度、他人名義の財産所有等にも適當の取締を加ふべし。

四、官業の經營は其の官僚的氣習を除去し、民業に準じて合理化すべし。且つ國家收入の増大と統制政策の遂行を促進する爲半官半民の組織を擴張すべし。公益性乏しき事業は民營に移すべし。

説明 官業はその經營方式が官僚的なるのみならず、從來政黨政治の惡弊をうけて醜怪事の巢窟たるの觀を呈した。今や統制經濟制度下にあつては、政黨政治の傳統的惡弊は之を除去し得べきも、官僚的弊風に至つては、往々にして益々助長される恐れがある。是に於てか吾等はその組織の變革を主張せざるを得ない。即ち、官業は普通の

行政官吏をして經營せしめず、特殊の専門的經營者にその管理を一任し、極力實業風の用式を採用せしめ、國家は之に對し適當なる統制を加ふれば足る。或は一步を進めて、官業を半官半民化し、右の主旨に基く實業式經營を徹底的に採用すべきである。

五、失業救済、産業振興及び國防充實の見地より、公共事業は大いに積極的に實施すべきも、無計畫なる不生産事業の濫興は之を避けねばならぬ。

説明 國家が公共事業を振興して、國力發展のために努力するは、大に獎勵すべきである。併しそは無計畫にして濫雜なる一時逃れの政策であつてはならぬ。失業救済生産力振興、及國防充實の三大目標により、明確に計畫化されなければならぬ。目前



の不健全なる昂奮を招來する爲、巨額なる負擔を將來に残すが如きは断じて戒めねばならぬ。又、有用なる民間事業に充當すべき貴重なる資金を、漫然たる救済に濫費するものであつてはならぬ。かゝる見地より事業の選擇及び經營方針は嚴密なる審議を經ねばならぬ。經營は必ずしも國營乃至公營たるを要せず、半官事業又は私企業に對して、一定の損失保證又は援助を與へて、之を獎勵するも、その便法である。公共事業たるの故を以て、勞働條件を嚴酷ならしむるが如きは、断じて之を排斥せねばならぬ。

六、恩給、年金制度の改革をなし、特に定額以上の重複收入者に對する支給を制限すべし。

説明 恩給、年金制度の改革は財政々策上極めて重要な一項目である。その支給率

及納金率の如き技術上の問題は姑く措くも、さし當り、恩給をうけながら、別途收入の多額なる者に對しては、全収入の合計が一定額に達する場合、恩給支給率を削減するを緊要とする。

又、恩給支給開始年齢の制定も考慮さるべき問題である。壯年にして恩給生活に慣るゝが如きは國民の勤勞精神を害する點よりするも慎重なる考慮を必要とする。

田子にして女子は適用せず、  
一 壯年にして現例より恩給生活に慣る



# 第八 勞働の國家統制

一、統制經濟下に於ける勞働者及び農民は、腐朽せる自由主義下の偏見を清算し、國家的見地に立てる新指導精神を確立し、以て綜合的國力増進の中樞機能たる眞使命に邁進すべし。

【説明】我國の勞働者及び農民は、その生活的環境よりするも、純血無雜なる民族中の精髄である。而して其の職能上國家存立の最大要素たることは、明々白々の事實である。然るに勞働者、農民の團結及び運動は、常に國家の官憲によりて猜疑せられ

彈壓せられ、恰も國家に有害なる毒蟲の如く虐遇せられるは、忍ぶ可からざる矛盾である。これ實に過去に於ける支配階級の一大謬見に出づるは勿論であるが、勞働者、農民が一般大衆の諒解と支持とを受くべき、獨自の指導原理を高揚せざりし結果である。

日本の勞働者、農民運動は、日本國家の國際的環境と、民族的傳統とに即して、日本獨自の進路を取るべきである。然るに我國の勞働者、農民運動は、體驗より會得せる自身の指導原理を育成することをなさずして、大正八、九年前後の外來的衝擊に感電し、その指導權を擧げて、所謂インテリ勞働指導者に一任するに至つた。是に於てか難解にして併も魅力ある卓上理論は、勞働者農民を煽動し、激揚し、狂熱せしめ無意識のまま無事の民を驅りて、國家觀念の外に逸脱せしめた。併もその指導原理と運動方法とが内包する未熟と矛盾とは、必然的に無産運動を崩壊せしめ、指導者は大勢の不可なるに墜きて、轉向又轉向、純眞なる勞働者、農民を遺棄して敗走するに至



つた。

わが労働者及農民は、今や、これ等の偏狭なる階級闘争一點張りの原理を棄て、國家的見地を恢復せねばならぬ。而して其の本來の眞使命を自覺して、綜合的國力増進の中樞機能たる積極的役割を果さなければならぬ。國家は固より労働者及農民の此の積極的使命を尊重し、その機能の發揮を助成せねばならぬ。

随つて現段階に於ける我労働者、農民運動の目標は、特定の社會に於て、特定の學者によりて考案せられしイズムと公式とに拘束せらるゝを要しない。労働者と農民とは各々其の職能により、須らく綜合的國力増進の最前線に立ちて奮闘すべきである。綜合的國力とは、國家の武力、經濟的生産力、労働者、農民及一般大衆の體力、智能力、精神力等總てを總括するものである。此の綜合的國力増進の障害たる限度に於て資本主義を打倒すべし、此の綜合的國力崩壞の害毒たる認識に於て共產主義を撲滅すべし。而して労働者と農民とは此の戦線に於ける勇敢堅忍なる闘士として、世の尊敬と

信頼とを獲得し、以て階級的權益を増進して、統制經濟の確立に資すべきである。

二、國家は國民的利益の見地より労働者及び農民の生活の向上を保證し、適切なる社會的施設を斷行するの責務を負ふも、同時に、労働者及び農民の行動に對して公的統制を加ふべし。

説明 統制經濟の下に於ては、國家は特殊の階級的立場を脱却せる國民的利益の見地に立ちて、積極的に各般の公的施設を斷行せねばならぬ。殊に國力充實、生産力發揚のためには、國民大衆の生活向上を促進し、いやしくも失業して、飢餓に泣く者の如きは絶滅するを期さねばならぬ。單に失業者に職を與へるだけでなく、労働大衆の生活水準を可及的向上せしめ、國力増進の中樞機能たる實力を完全に發揚せしめる見地から、最低賃銀と最高労働時間制とは是非共斷行せねばならぬ。その他一般社會



施設に就ては一々枚舉するに遑なきも、特に大規模なる國家的職業紹介制度の如き、授産事業の如き、社會保險制の徹底化の如き、就中、力説大書せらるべき緊急事項である。

反面に於て、國家は勞働者農民に對しても強力なる公的統制を加ふべきである。此の統制たるや一切の偏見を超越して、全國民的福祉の上に立脚せる至高至正のものたるが故に、勞働者農民も、絶対に之を遵奉せねばならぬ。蓋し、統制經濟の要諦は全國民が各自の社會的機能に應じ、國家の公的指導の下に合理的協働を行ひ、以て綜合的國力を増進し、國民生活の絶對的保障を企劃するに外ならぬからである。

三、統制經濟下に於ける勞働者及び勤勞階級は、各々その業種別組合を組織して、國家の公認を受け、企業家と團體交渉をなし、其の正當なる階級利益を擁護し、進んで生産協働體たる使

命を發揚すべし。雇傭主は使用者が公認組合に加入せる故を以て、その雇傭を拒否するを得ず。

説明 統制經濟下に於ては、それに適はしい新組合組織が完成されねばならぬ。それは企業家が公認組合として、業種別の協働體を組織して居ると同様に、勞働者も業種別に代表組合を設けて、國家の公認を受け、勞働條件の決定等には堂々と企業家と團體交渉をなし、進んでは、經營協議會等を設けて正當なる階級的利益を主張すべきものである。雇傭主は勞働者が組合に加入せるの理由を以て、その雇傭を拒否することは許されない。但し組合の使命は生産的協働體として、國家の最高目的と全國民の福祉とに寄與せんとするものなるが故に、勞資互に仇敵視せし舊時代の組合精神を脱却し、國民全部の中に階級の利益を確保する新信條に徹底すべきである。此の見地から新組合は又特に勞働者の精神的並びに技術的訓練に力を注ぎ、生産力の



増進に寄與せねばならぬ。國家が此の種の新組合を極力獎勵、助成し、その機能を顯現せしむべきは言ふまでもない。

四、國家は生産力の破壊と停頓とを來すが如き一切の私的鬭争は嚴格に之を禁止する。國家はその最高至正の立場に居りて、凡ての勞資間の紛争を調停裁斷し、苟くも背反するを許さない。

説明 統制經濟下に於ける凡ての生産活動は私的營利の爲に營まれません。必ず綜合的國力の増進と、全國民的福祉の培養とを目的とするものなるが故に、その生産力の破壊と停頓とは飽くまで回避しなければならぬ。それ故勞資間の紛争は當事者双方の代表者と、公正なる國家的立場の第三者を以て組織する公的調停機關に依つて裁決し、絶體にその判決に對して、背反することを許されない。紛争は先づ經營内部の勞資協議

會によりて和解に盡力させ、尙ほ解決せざる時は直に右の調停機關に申告せしむべく、その以前に罷業及工場閉鎖等の舉に出で、國民的生產力の停頓を來すを許さない。



## 第九、日滿統制經濟の確立

一、日滿兩國は相互依存の原則に基き、高度のブロック經濟圏を確立すべし。

説明 日本は滿洲に對して英印間にみる如き植民地採取政策を絶對に排し、日滿融合經濟ブロックの確立を目標とすべきである。即ち日滿兩國は徒に偏狹なる自己本位の孤立政策を採らず、兩國を打つて渾然單一經濟圏たらしむべき理想により、綜合的に大觀せる見地から兩者の合理的分業を助成すべきである。滿洲は大體原始的産業を

土產とすべきも、必ずしもその工業化を抑制すべきではない。即ち、社會的、歴史的諸條件に適合せる新産業は滿洲に於ても急速に發展せしむべく之を助成せねばならぬ。又、日滿兩國は緊密に依存し、一體となりて、外國の侵入に抗爭し、更に積極的にアジア・ブロックの指導者たるべき共同の使命あるを以て、滿洲に於ける國防事業は日本の援助の下に極力急速なる發展をなさしめねばならぬ。以上の見地から重工業、アルミニウム工業、國防用の化學工業及び機械工業等は當然滿洲に於て獎勵されねばならぬ。

二、日滿兩國は關稅障壁を廢除し、少くも極力低下して、相互依存の實を計らざるべからず。又、通貨制度は日本に於ける本位制の恢復が見極めらるゝ場合、成るべく速かに之を統一すべ



きである。

説明 上述のプロツクの見地に即して、日滿兩國の關稅障壁は可及的低下を計りなるべく速かに單一關稅國內に組合せるやう努力せねばならぬ。この主旨に基き、とりあへず特殊交換商品を選択して、相互特惠的關稅協定をなし、速やかに關稅同盟の實現を期すべきである。

通貨制度も同一主旨に基き、本位制の前途が見極めのつき次第、迅速に彼我の統一を計るべきである。

三、滿洲産業の開發と同時に日本産業界にもその強力なる刺戟的壓力を利用して大規模なる合理化的轉換を遂行せしむべし。

説明 日本には日本の既存利益が滿洲開發によりて、損傷せられんことを吸々として恐怖する者もあるが、かゝる狹隘なる保守的見解は因り一顧にも値せぬ。斯の如きは畢竟老朽企業の人爲的延命政策に没頭して、滿洲開發による日本國力の積極的振興を考慮せざる井底の見の外ならない。吾々は滿洲の豊富なる資源を最新技術によつて開拓し、その刺戟の下に日本産業界の全面的再編成を斷行せしめざれば止まぬものである。而して之によりて生ずる衝擊は別に社會的見地によりて緩和手段を講ずべきである。

四、滿洲開發のために日本資本團を動員し、國家的指導と統制の下に組織的進出を行はしめざるべからず。但し、資本的進出と同時に日本労働者の滿洲進出をも促進することを高調せねば



ならぬ。

説明 滿洲開發は日本の資本と技術の助力の下に始めて可能となるべし。それ故、日本國家はその金融統制の急速なる實現によりて、滿洲開發資金の調達をも合理的に決せねばならぬ。

開發資金の調達方法として考へらるゝは、

- イ 滿洲中央銀行のインフレーションの方策（日本はその公債發行に應募すべし）
  - ロ 日滿合辦の滿洲開發金融機關建設
  - ハ 日本資本團の滿洲産業への直接投資
  - ニ 日本國家の保證による滿洲への建設用材の信用賣込み
  - ホ 歐米資本の吸收（日本の仲介を要す）
- 等である。

但し、日本は資本と技術とだけでなく、勞働力の提供をも併せ斷行せねばならぬ。勞働力を伴はざる資本の存在は、不在地的偏奇性に墮するものである。此點に就ては世上多少の異論あるべきも、それは畢竟自由主義經濟の見地に立つ時代錯誤の產物に外ならない。勞働力の進出は日滿經濟の融合及び日本の大陸經營の立場よりみれば、一日も怠るべからざる急務である。

勞働力の進出中、一般不熟練工の進出はその困難比較的にならざるべきも、能ふ限り國家的援助の下にこれを組織的に促進せしむべきである。或は日本人の參與する企業に於ては、國家の命令により一般勞働者中一定割合の日本勞働者を雇傭せしむることゝなすべきである。

農業移民に就ては特に集團的方法により、國家の擁護の下に大いに發展を期さねばならぬ。

以上の方針によるも、滿洲土着勞働者の低廉なる作業による競争品の日本への輸入増



加は、日本勞働者に失業の危険を擴大せしむるかも知れぬ。かゝる場合には、失業勞働者を再收容する爲に日本政府に於て適當の國家的方策を講せねばならぬ。この際内地企業の没落と社會問題の派生とを口實として、合理的分業の原則に依りて統制的に生産さるゝ滿洲品の進出を妨害するが如きは、甚だ姑息なる態度として斷然排斥せねばならぬ。これらの問題は積極的大變革過程の必隨現象として別個に社會政策的に善處さるべきである。

五、滿洲開發の根本的方針を確立する爲、日本の經濟參謀本部内に滿洲開發計畫部を設置す。此の計畫部と緊密に提携して關東軍司令部の配下にも統制委員會を設置す。而して此の統制經濟の機構は大體日本と軌を同じくせしむ。

説明 日本經濟參謀本部に就ては上述した(第三節第三項參照)關東軍内の滿洲統制は若干名の専門家より成る委員會と、その支配下に屬する有能なる調査機關をもつて組織する(特務部及滿鐵調査會の再組織化)委員は一流の人材を集め、且つ成るべく長年期の就任を保障する。これには日滿兩國人の顧問委員を附設する。滿洲開發の根本政策は日本の經濟參謀本部から關東軍司令部に指令されるが、その具體的實行案については、滿洲統制委員會の立案に準據すべきである。金融及産業に對する國家統制の組織も日本の場合に準せしめて可なり。即ち一般には民營主義とし、特殊の重要産業だけは半官半民組織として、國家の統制に服せしむべきである。

六、滿洲國家をして極力國力振興と公共事業の發展に努力せしめ、これに對しては日本國家も能ふ限りの援助を與ふるべし。



**説明** 現に滿洲國家の實行しつゝあるところは、汲々乎として財政收支の均衡を獲得せんとする努力に外ならない。かくの如きは建國草創の際に於てはむしろその氣宇の狭小なるを憫笑すべきである。吾等は財政を以て、國力振興の一用具と認むること既に述の如し。何ぞ滿洲國も亦大に公債を起し、資源の開発のために積極的經營を斷行せざるや。日本國家も亦此の積極政策を極力援助し、兩者融合、依存の實を擧げるに努めねばならぬ。

七、日滿兩國の産業には國際協働組合を設け國家統制の下に融合化を促進すべく、更に資本的融合に依りて國際コンツエルン化を助成すべし。滿鐵治下の諸企業はなるべく速に順次資本的

獨立を得せしめ、以て、此の日滿企業資本の部門別融合に便ならしむるを要す。

**説明** 滿洲開發に伴ひ、日本の老朽産業が淘汰されるのは必然の成行きであつて、これを阻止するは合理化の政策に逆行する所以である。しかしその過程に於て餘り急激なる躍進をなすことは、忽ち内地産業界を混亂に陥れ、重大なる社會問題を惹き起す虞れがある。此の混亂を避けしめるために日滿産業界には國際協働組合（その組織は日本の業種別新組合と同様とする）を組織せしめ、日滿兩國の最高統制の下に合理的融合を秩序的に促進せしむべきである。

しかし日滿産業の融合のためには、日滿カルテル化だけでは不十分である。内地産業家は速に滿洲の同種産業に向つて進出し、資本的にも日滿融合の國際コンツエルン化を出現しなければならぬ。



國家はこの資本的融合の大道を打開する爲、成るべく速かに滿鐵の綜合トラスト制を分解せしむることが必要である。即ち滿鐵はなるべく早く、その治下の諸企業を順次獨立せしめ、之を各部門的トラストに分解し、それらの部門に従つて内地資本の進出を可能ならしむべきである。或は逆に滿鐵の綜合的支配を促進せんとする計畫もあるが、これは日滿融合の見地からいつても、また企業經營の内面的能率からいつても更に公的統制の見地からいつても大局的には希望すべきものでない。但し目先の應急政策としてならば、後日の分解を前提として、暫定的には許容しても支障ないであらう。最後に例示的に炭坑業について吾等の主張の一端を説明するならば、先づ第一歩は滿鐵の所有炭坑を中心として單純な滿洲炭業トラストをつくらしめる。次に他の本溪湖その他の日本經營の滿洲炭坑、及び北票其他の支那炭坑をも之に合併する。而して能ふべくんば更に進んで開源炭坑をもその統制權内に收め、また新邱その他の新規炭坑をも計畫的に開發する。斯くして形成せられる此一大炭坑トラストに、是非

とも内地の炭坑業者の資本的進出を促し（滿洲炭業への共同投資シンヂケートをつくらせるのも一法であらう）、内地企業と連繫してその資本及び技術を利用させねばならぬ。かくするときは内地炭業者は内地の老朽炭坑の閉鎖によりて失ふよりも、より多大の利益を滿洲炭業への新投資で獲得することが出来、随つて内地の合理化は促進され易い。

日滿炭業間の生産販賣、市場の分配等は國際組合をつくり、國家的統制の下に規律せしめればよい。



---

労働運動綱領  
我が世界政策の指針  
強力政治の檄



全國民運動の一環としての

## 労働運動綱領

### 劃期的革新の首途

諸君、今回私が逓友同志會に關係するに至りましたことは、私に於て一大決心であり諸君において一大飛躍であります。私はこゝに立至りまして今更ながら、責任の重且つ大なるを感ずるのみならず、劃期的革新の首途にある我國の現狀に於て、私の立場の頗る微妙なるを思ふのであります。私の全生命を鼓舞しつゝある主たる動機は、今日、八方に行き詰まれる日本の現在を打開して、改造更正の實を擧げんとするにありませう。諸君の端的に要望する、處は諸君の階級的立場に即して、その權益を増進し、將に來らん



とする社會に於て、國民としての重大責務を全ふせんとするにありませんとす。私は嘗て軍部に對する見解を語りて、政治家は國民大衆を通じてのみ軍部と握手すべしと述べたのであります。勞働者に對してもこれと同じく、政治家は須らく、國民大衆を通じてのみ勞働者と握手すべしと信するのであります。今や非常時の重壓は、私の志す所と諸君の要望せらるゝところとを、完全に結合せしめ、爰に私は革新的全國民運動の重大要素としての勞働運動に乗り出すに至つたのであります。

統令を受諾したる理由

私には私の信念があります。諸君には諸君の傳統があります。苟しくも合することは不可能であります。こゝに於てか、私と同郷の誼ある浦山執行委員長の來訪を受けてより以來、數回に渉りて意見の交換を行つたのであります。まづ大いに私を動かしたのは、浦山君がそこらに流行する卓上理論の勞働指導者でなく、現に一圓八十錢の日給し

かとらない郵便脚夫であつた事であります。彼の體驗より得來つた勞働運動の將來に對する見透しと、私の平素より抱いてゐた根本信念とが完全に合致するのみならず、双方の熱情を以て熔け合はさるゝのを感じたのであります。そこで兩三日前、御相談の件に就て内諾を與へ、今日正式交渉委員諸君に對して、逓友同志會の統令たることにつき私の決意を傳へたのであります。

即ち統令は逓友同志會の社會的使命に對し行動の大本を指令す。

統令の指令は執行委員長の副署を伴ふべし。

とあるのであります。私は此の規定に従ひ主として逓友同志會の社會的、政治的行動に對して、根本方針を指令する覺悟であります。就ては此の重任に當ります以上、こゝに私の態度を明白にし、勞働運動の標準とすべき勞働運動綱領を指示し、逓友同志會を通じて天下にこれを宣言し、一代の機運を制せんとするものであります。今この綱領の趣旨に基づき就任について私の信念を語ります。



日本勞働者農民運動の苦杯

吾國の勞働者及び農民は、その生活的環境よりすれば、實に毛一本も混りけなき日本人中の日本人、民族中の精髄であります。またその職能よりすれば國家存立の最大要素であります。勞働者の腕、農民の汗、これを除いて何處に國の元氣が見出されませうか。そののみか、いざ戰爭となれば、第一矢玉の餌食となるのは、この純朴忠實なる勞働者農民の子弟であります。その陛下の赤子たる勞働者農民の團結及び運動が、常に國家の官憲から猜疑せられ、彈壓せられ、さも國家に有害なる毒素が作らるゝかの如く、虐待されたのは、洵に忍ぶべからざる矛盾であります。かくの如きは、過去に於ける支配階級の一大謬見に出づるは勿論であります。一面に於て勞働者及び農民が、一般大衆の諒解と支持とを受くべき獨自の指導原理を高調しなかつた結果であります。日本の勞働者及び農民の運動は、日本國家の國際的環境と、民族的傳統とに即して日本獨自の

進路を取るべきであります。しかるに、我國の勞働者農民運動は生活と體驗とから會得した、それ自身の貴き指導原理を育て上げることをしてしないで、大正八、九年前後ロシア革命によりて捲き起された外來の氣流に捲き込まれ、その運動の指導權を擧げて所謂インター勞働指導者に、一任するに至つたのであります。

インター勞働指導者の慘敗

そのインター連は何を知つておりましたか、大學の教室の中で好奇的に聞き覺えた責任感を伴はない机上の空論であります。その言葉も、その表現の形式も、勞働者農民には縁もゆかりもない知識遊戯階級のそれでありませう。勞働者農民と云へば、バク臭くもなければ横文字の中毒にも罹つてゐない連中でありませう。それに似もつかない舶來の言葉や思索方法を注ぎ込まれ、よく諒解の出來よう筈はありません。こんな大ケしい理論は聞いてわからぬのも尤もであります。講釋したり、宣傳したりしてゐる指導者その者が



一知半解の徒であります。しかし、現實生活の苦惱に疲れし労働者及び農民は、この難解にしてしかも魅力ある卓上理論に引きづられて、或は熱狂し或は激揚し、指導者達の云ふが儘に多大の犠牲を拂つたのであります。マルキシズムの公式を拜借して説明すれば、その指導原理と運動方法とが内包する未熟と矛盾とは、必然的に無産運動を崩壊せしめたのであります。

国外に遊離した過去の運動

労働者及び農民は各々ユートピアの幻を頭に描いて引きづり廻されてゐたのであります。その指導原理によりて何時の間にか、國家の外に引き摺り出されてゐたのであります。即ち労働者及び無産運動は國家の外にありて、國家そのものを怨み且つ呪ふが如き外觀を呈し、國家の官憲はこれを國家に有害なる危険分子なるが如く待遇するに至つたのであります。しかるに、一昨年九月十八日以来、平凡な連中の眼にも著しく目立つ

ようになつた國際的非常時は、日本國民一般の潜在愛國心の本能を一時に爆發せしめたのであります。そこで非國家的思想は固より、それらしき言葉の端くれまでも一般國民の憤怒を招くに至つたのであります。斯うなりますと、指導者等は元來机上の空論以外人格上の鍛錬も、修養もない連中でありますから、大勢の不可なるを見て驚き且つ恐れ轉向又轉向、純眞なる労働者農民を疲勞困憊のまゝ、戦場に遺棄して敗走するに至つたのであります。

日本独自の労働運動とは

私の信ずる處によれば、我が國の労働者農民運動の目標は、特定の社會に於て特定の學者によりて考案せられし所謂、イズムと公式とに捉へらるゝを要しないのであります。どの國の大學者も未だ日本の國際的環境と民族の傳統と、而して産業發達の段階と用式とを具さに觀察して、これに適用すべきイズムを決めた人はいないのであります。しかる



に、前人の書いたイズムそのものも墨守して、運動を開始せんと聲明する人は、聲明したその刹那に轉向の危機を孕んでるのであります。私をして云はしむれば労働者と農民とは須らくその職能を發揮し、総合的國力増進の最前線に立ちて奮闘すべきである。

### 総合的國力とは何か

総合的國力とは私自身の言葉であります。これは國家の武力、經濟力、生産力、それからまたその根柢となるべき労働者農民の體力、智能力、大衆の精神力等總てを總括するのであります。こゝに一言すべきは、この國の體力、智能力、精神力等は命令によりて増進することはできません。當世流行の御用的精神講話のみで發達させることはできません。どうしても、今日社會の現狀に鑑み、労働者農民等一般下層階級の社會的、經濟的、環境を改善して後、これ等の人々をしてその環境の上における責任感を振ひ起さしむることが必要であります。即ちこの総合的國力増進の障害たる限度に於て資本

主義を打倒すべし、此の総合的國力を崩壊せしむるの害毒たる認識に於て、共產主義を撲滅すべし。而して労働者と農民とはこの戦線における勇敢にして堅忍なる闘士として世の尊敬と信頼とを獲得し、以て階級的權益を増進して、統制經濟の確立に備ふべきであります。

### 統制經濟への必然性

こゝに、統制經濟とは抑々何であるか。これも又インテリ風の公式で説明すると面倒であります。それは、簡単に言へば全國民が各自の社會的機能に應じ、國家の公的指導の下に、合理的協働を行ひ、以て総合的國力を増進し、國民生活の絶對的保證を企劃することに他ならないのであります。國民生活の絶對保證といへば、それは天來の福音であつて、容易に地上に齎らし得べきものでないと諦め、手を束ね、指をくわえて見てゐるのが傳統自由主義者、傳統資本主義者の臍甲斐なき體態であります。しかるに眼を



開いて地圖を見渡せば、我が日本國は、北は千島樺太より、南は沖繩臺灣に至る日本國と、大陸に連なる朝鮮とを有し、此の朝鮮の廊下傳ひに、日本と協力する大滿蒙を有してゐるのであります。この日滿鮮を打つて一九とすれば、北は寒帯より南は亞熱帯に亘り、群島と大陸とを包容する莫大なる資源を有するのである。而して、日本民族と朝鮮民族とを併せて其數一億萬、これを農場に放てば勤勉なる農夫であり、これを工場に收むれば熟練なる勞働者であり、これを戰場にさし向くれば精銳無雙の軍隊となし得るのであります。この廣大なる土地、無限の資源に配するに、有能なる一億の民衆を以てする日本ではないか、而して現に國家は建設と生産とを要求し、國民は勤勞と衣食とを要求してゐるではないか。然るに、廣大なる資源は利潤經濟の打算の爲に封鎖せられ、生産は制限せられ、失業者は巷に溢れ、國民は飢饉に瀕し消費は減退し、市場は不況に悩んでゐるではないか。即ち、この國家的資源と國民的勞力とを完全に組合せ、以て新たな環境に順應すべく經濟産業の均整を保ち、生産と消費との適合を全からしめ、國

家の富強と大衆の幸福とを結びつけることが、要するに統制經濟の大なる使命であります。

### 生産的協働體

是に於てか、國家は此最高目的に達せんが爲に、一面に於て資本家に對し強力なる公的統制を加ふると共に、一面に於て勞働に對しても同一趣旨に基づきて公的統制を加へざるを得ないのであります。この公的統制たるや、勞資間の偏見を超越して、全國民的福祉の上に、立脚せる至高至正のものでありますから、資本家も勞働者も、腐朽せる自由主義的環境の下に育てられた行動綱領を揚棄して、絶対にこれを遵奉すべきものであります。統制經濟下における勞働者及び勤勞階級は、各々組合を組織して、企業家と團體交渉をなし、またその正當なる階級的利益を擁護せんがため、敢くまで奮闘すべきは勿論であります。しかしながら、組合の使命は生産的協働體として國家の最高目的と



全國民の福祉とに寄與せんとするものでありますから、勞資互ひに仇敵視せし舊時代の組合精神を脱却し、國民全部の中に階級の利益を確保するを信條とすべきは勿論であります。統制經濟における生産活動は、私的營利の爲のみに營まれるものでない。その營利心は綜合的國力増進の拍車としてのみ認められ、全國民的福祉の培養を目的とするものである。故に生産力の破壊と停頓とを來すが如き一切の私的闘争は廢棄せらるべきものであります。随つて資本家は階級的反感を挑發するが如き利己的行爲を禁止せらるゝのであります。ロックアウトも、非條理的なる解雇も禁止せらるゝのであります。かくなる時は、ストライキ、怠業も、その必要なく、自ら否定せらるゝに至る譯であります。國家は最高至正の立場に於て、總ての勞資間の紛争を調停裁斷し、苟くも背反することを許さないであります。蓋し、かく云ふことは決して現存社會に於ける勞働者の闘争を否定せんとするものではありません。これは統制經濟制度確立後の勞資關係を示したのであつて、こゝにいふ社會を建設する過程に於て、勞働者の團結と、國民運動の壓力とを

要することは自ら別個の問題であります。

こゝに私の立場から一言しますれば、私はなるべく勞働者及び農民に闘争の犠牲を拂はしむることなく、或は輿論を開拓し、或は國民運動の後援を借り、或は政治的手段により、速やかに勞働者農民の耐え得べき合理的社會の建設を促進したのであります。準備なく、成算なく、社會をしてその妥當性を認めしめず、たゞ勞働者を煽動し、驅使し、無謀にも激烈なる闘争を開始して、必然の敗北を招き、勞働者の殘屍を戰場に曝して、指導者のみ恬として耻づる所を知らざるが如きは、これまで往々にして目撃した運動失敗の歴史であります。私はかくの如き無謀にして、慘虐なる手段に訴ふることを好まないであります。私はこの非常時日本の内外重壓の前に、國の上下を通じて、勞働者及び農民が國民的一大要素たることを確認せしめ、この氣流の上に勞働者の堅實なるコースを這はんことを切望するのであります。而して萬己むを得ざるとき、一度び立ちて闘はんか、全國民的支援は必ず我にあり、有利なる情勢の下、斷じて勝たんことを



期待するものであります。

### 國際情勢と日本革新氣運

こゝに最も痛快に堪えないのは、日本國家が、今日、現に見るが如き國際的重壓と、國民生活の危機の前に、全國民の各要素を通じて、鬱勃たる改造革新の氣運に充たされてゐることでありませう。現に官僚風は官業労働者を惱ますでありませうが、その官僚風の熾熱と行き詰まりとは、官界に不平の氣を横溢せしめ、漸くにして爆發せすんば止まざらんとしてゐます。俸給生活者の中にも、中小商工業者の中にも、現狀を打開せすんば止まざるの勢ひが、到る處に動いておられます。即ち、労働者、農民の集團的壓力は、全國民の間に鬱勃たる改造革新の主張と、その動向を同じくし、破壊より建設更正への推進力とならんとしつゝ、あります。而して推進力に激烈なる拍車を加へるものは、最近の國際的情勢であります。眼を開いて世界の情勢を靜視すれば、國際間の經濟的及び政

治的分裂の勢ひは、現存經濟機構と國民主義との本質に根ざせるものでありますから、牧師的、自由主義的説教では到底これを緩和することは出来ないものであります。これは是非の批判を超越して、己むを得ざる必然の力に迫られてゐるのであります。今日でも官僚風の外交家の間には依然として國際的孤立は考え物であるとか、亞細亞プロックに立て籠るは偏狹であるとか、大いに世界と協調し、大いに世界に活路を求めねばならぬとか、いろ／＼と説かれておるのであります。併しその孤立が好ましくないからこそ、吾國は國際聯盟に莫大なる費用を分擔して、多くの高級役人を送り、これまで大ていの事は鞠呑みにして、御無理御尤もと列國と歩調を合して來たのである。それにも拘はらず、

……、今に懲り性もなく國際的孤立は考え物だと宣傳し廻るに至つて、滑稽を通り越した一種の悲劇ではないか。世界と協調して國際的に活路を開拓しようといふ事は、固より



日本の念願であります。この日本必然の膨脹と發達とを先方が承知して呉れず、まのあたり日本と國際貿易上の對立關係にある英國は、去る四月十五日突如一片の通告を以て日印通商條約を破棄して居るのが今日の現狀であります。これは經濟的戰場に於て、九月十八日事變を先方から惹起したのである。それは單に印度ばかりの問題でなく、大英帝國全領土、全植民地がこれと相繼を打つて、日本品排撃の途に出ておるのであります。また英國は、オランダ、フランス等、彼等相互の間に利害を調節し、蘭領植民地、佛領植民地等に於ては英國と歩調を揃へて、日本品排撃の總行進を開始しておるのであります。此の必然の壓迫は、日本がこれに對して兜をぬぎ、お辭儀をしたとて許して呉れる性質のものではありません。即ちプロツク經濟政策の風潮は、机上の理論としてはこれを批判し、排撃することが出来ませんが、現實の政策としてはこの必然を認識して、これに對應すべき國家の立場を獲得するより他に道はないのであります。

### 亞細亞經濟プロツクの概念

そこで吾國の實際政策としては日滿經濟プロツクを基礎として、アジア經濟プロツクに擴大し、國防と生活との可及的自給自給を計りて、新環境に適應すべき根本的統制政策を講ずる事が、何よりの急務であります。かくてこそ平時には人心を安定せしめ、戰時には愛國的一大飛躍をなし得るのであります。併しながら、爰に私の主張する日滿經濟プロツク及びアジア經濟プロツクの概念は、決して退嬰的孤立化を意味するものではありません。積極的開拓のために、あらゆる外交的、經濟的手段を盡すの必要なるは勿論であります。現在の海外市場は單に搾取勞働によりて生産された低物價製品を以て無限に開拓し得べき情勢でない事を確認し、こゝに超大陸帝國のプロツク對立に善處すべき日本獨自の統制政策を要することゝなるのであります。今や極めて冷靜なる認識を以てしても、超大陸帝國プロツク對立の勢ひは、漸やくに尖鋭化して、遂に國際的危



機を激成するに至らんとしております。日本は特に瀛洲國建設、國際聯盟撤退以後、列強の重壓を蒙りつておりますが、日本國民の旺盛なる反撥力は、仲々これに屈するものではない。却つて世界の貿易經濟市場いたる處に老朽帝國主義諸國を脅かし、勢ひの逼るところ日本は漸やくにして國際危機の焦點に立たんとするに到つております。すなはち、一九三六年を待たずして、日本は自ら備ふるところがなければなりません。乃ち外患に處すべく內的準備の完成を計ることが眼前の急務であります。行き詰まれる國民生活に顧みず、糜爛せる社會情勢を放棄し、上下に漲る不安を内蔵して、外來の國難に當るが如きは、國家の不幸これより大なるものはないのであります。

### ナポレオンは何故勝つたか

大戰爭中に崩壊せしロシアとドイツとの社會狀況勢は大いなる教訓を後世に遺すものであります。是に於てか現に軍部の上下に鬱勃たる國家改造の主張は外患に處すべき

國家の内臟治療を要求するものに他ならないのであります。統後における國民生活を整理せしめて、戰場に精銳なる軍隊を送ることは不可能であります。往年ナポレオン一世の軍隊は何故に向ふ所敵なく、歐洲の天地を席捲するを得たのでありますか。當時歐洲大陸諸國では、農民の所得中その七十パーセントは、貴族僧侶が之を搾取し、農民は僅かに所得の三十パーセントを以て生活しておつたのであります。この不合理なる社會狀況の下に何れの國にも社會的不安があり、歐洲列國では國內の不安を鎮壓すべく、兵力の大部分を割かねばならなかつたのであります。しかるにフランスのみは革命を完了して社會的不安を除き、その全兵力を擧げて外敵に當ることが出来たのであります。これ革命に疲れたる佛蘭西が、猶ほ其餘威を以て、歐洲の天地を震撼せしめた所以であります。軍隊の士氣と雖も國民の元氣を放れては存在するを得ないのであります。弘前師團の精銳は東北貧農の子弟であり、久留米師團の強豪は北九州産業地帯の勞働者を要素とするのであります。大いに國軍の武威を發揚するには、その國軍の基礎たるべき農民及



び労働者の生活的不安を除き、その元氣を培養するを主眼とすべきであります。世界の何れの歴史を見ましても、軍部は保守的傾向の擁護者たるが常であります。今や日本の陸海軍部は共に歩調を揃へて、却つて革新的大飛躍の原動力とならんとしつゝあります。軍部が國家の進歩的傾向と歩調を揃へることは、國民的一大發展の兆候でありまして、この勢ひを善用することが非常時政治の妙用でなければなりません。

### 既成支配階級の悲劇

五・一五事件以來、非常時勢が激化するや、かゝる時にこそ最も強力なる政治的發動が必要であるのに、既成政黨及既成政治家等は腰を抜かし、息を殺して爲すところを知らず、云ふところを知らず、天下に其の醜態を曝して居るのであります。近頃既成政黨の領袖等の様子を御覽なさい。頼つべたを一つ張り廻された後のようなぼんやりした失神状態を示して居るのであります。既成政治家は何を恐れるのであるか。資本家財

閥は、何に怯えるのであるか、社會的必然の妙用である。この自然の妙用は阻止するを得ず、又恐るゝを要しないものである。既成支配階級がピストルの音に腰を抜かし、爆弾の響に夢安らかならざるが如きでいたらくで居りながら、總ての進歩的傾向の前に一切眼を閉さんとするが如きは實に愚の骨頂であります。社會の劃期的變革はその時機を押し伸ばせば伸ばす程、その禍根を深くして一朝爆發するや、その慘害を大ならしむるものであります。早きに臨んで革新の手を下さざれば不安の鬱結する處、遂に玉石共に焚くの災害を誘致するに至るのであります。この現實に對し腐朽せる自由主義と痲痺せる資本主義と、墮落せる既成政黨とは、全く無感覺であります。彼等によりて沈滞日本の更生は到底望み得られないのであります。現に眼前に見るが如き建設計畫を伴はない財政インフレ政策は漫然たる無計畫政治の常でありまして、捉通りに潜在せる病根を後日に擴大し、社會大崩壞の原因を醸しつゝあるのであります。すなはち文武官民その認識を一つにして、速かに劃期的大革新に着手せねばならないのであります。しかし乍



ら陶酔せる現在社會は國民的一大壓力によりて、逼らるゝでなければ、到底革新の端緒を開き得るものではありません。是に於てか、特に農民、中小企業者、俸給生活者及び勞働大衆の集團的結成を促し、この各部的結成の力を交錯集中して全國民的運動の主體となし、時代轉換の推進力となすことが、今日の急務であります。

### 日本勞働運動はこれより創る

私は今日選友同志會の統令を受諾する機會に於て選友同志會を通じて滿天下の勞働者農民に呼びかけ、何れの國何れの歴史に於ても革新の原動力たる生産階級の實力によりて、國民的大革新運動を完成せんことを切望するのであります。外患を控えたる日本は、兄弟相殺生ずるの破壊を避けて、秩序ある建設を急ぐ事が急務であります。破壊已むを得ずとせば、その破壊を小にしその建設を速やかにし、部分的破壊に接続するに部分的建設を以てし、新陳代謝、破壊と建設との間に間隙を置かず、國力の發達を中絶す

ることなくして、國家改造の實を擧げることが國際危機に善處すべき日本國民の態度でなければなりません。即ちこゝに國民的革新運動の重大要素たるべき勞働運動綱領をこの大會の議長席に提出して、日本勞働運動の新標準となさんとするのであります。我國の眞の勞働運動は今日より創まることを確信し、諸君に協力と奮闘とを要望します。



## 我が世界政策の指針

民報社時代に於ける日支青年の接近

曾て私の親友であるボース君はインド解放の爲に努力を拂つて戴きたいと云ふ希望を述べられたことがあります。私は最近各方面の講演に招かれて出席するのでありますが、何處に参りましても、青年諸君の間にアジヤを研究し、インドを研究し、之を基礎として日本の基礎を定めると云ふ希望及び感情が澎湃として起りつゝあるのを見てこれは驚て日本がこれに踏込んで行く前兆を示すものとして非常に愉快に考へて居る次第であります。亞細亞諸國青年の握手——利害を打算せざる純情なる接近、これ程大勢を決するに力強いものはないのであります。



私共が初めて東京に参りました時は、丁度日露戦争の眞つ最中でありました。その頃の青年の頭を占領して居たものは、支那問題を中心とした日本の國策であつたのであります。又支那の方でも大に日本に希望を繋ぎ東京は支那の留學生で満たされて居たやうな状態でありました。そこで誰言ふとなく日支親善は我國策の機軸なりと云ふ聲が天下の輿論を支配して居りました。これが國民の希望であり、青年の感情であつたのであります。元來、日清戦争では日本から云へば光榮ある勝利に終つたのであります。支那から言へば打ち負かされたのでありますから、支那人は日本に對して反感を有つのが當然でなければならぬのに、當時支那の青年はさうは感じて居なかつた。日本と戦つたのは中華民族そのものではない。それは支那を支配する滿洲朝廷の専制政府であつて、その腐敗し切つたマンダリンを打ちめしたのが日本である。畢竟日本は中華民族の爲に軍閥を打破したのである。日本はその結果世界に認識せられるやうになつた。吾々は日に日本に學んで支那を世界の前に抱へ起さなければならぬと云ふのが當時の支那青年の希望であり感情であつたのであります。それで日清戦争後は支那が却て益々日本に接近して來た。更に日露戦争を経るに及んで、日本に對する認識は益々高まり、日本に憧がれて東京に留學する支那の學生は益々多数になり、神田、早稻田界限を通じて支那の留學生の數は無慮五萬とか六萬とか申して居つた位であります。

私共はその際段々支那人に接近し、段々友人を作つて行つた。さうすると吾々の仲間の中の一人の青年が曰く、仲間の中に張繼と云ふ豪傑が居る。これは支那革命の同盟會の一人で一番若い男である。赤坂の紅葉と云ふ支那料理屋に張繼君が行つて支那料理を食つて居ると、次の間に支那の公使館の役人が多くやつて來て、しまひには藝者を呼んでフザけて居る。その亂痴氣騒ぎをして居るのを次の間から聞いて怒髮冠を衝き、隣座敷に暴れ込んで公使館の役人を滅茶苦茶に殴り付けたのが張繼君である。彼はその勢で公使館に暴れ込んで公使を面責した。そして公使館員の行動は國辱を暴露するものなりとネジ込んだ。それが因になつて張繼君は今で云ふ危險思想扱ひを受け遂に送還されて



しまつた。彼は初めは張傳と云つて居たが二度目に變名で留學して今度は張繼となつて來たのだ。それは實に面白い男だ。會つて見ないかと云ふ。何處に居るかと思つて見ると、牛込の新小川町の民報社に居ると云ふ。その民報社とはどんな處かと思つて行つて見ると、横町の小さい處に民報社と云ふ看板が掲げてある。これは例の革命黨の同盟會の總本部である。同盟會と云へば革命黨の正系であつて、それが民報社を本陣としてそこから民報と云ふ革命主義の雜誌を出して居つたのであります。そこに行つて張繼君に初めて會ひ、支那青年の希望を聞いた。その民報社には後日支那革命の父となつた孫文氏もやつて來た。孫文氏は廣東理想派の頭目とでも云はうか、革命の指導方針たるイデオロギ―を組み立て、革命大衆を指導する役目を勉めて居たが、湖南實行派の頭目とも云ふべき者に黃興と云ふ人物が居りました。その黃興と孫文とを提携せしめたのは東京に於ける日本の先輩志士でありました。黃興、孫文の提携が出來て二人共民報社を本居とするやうになり、或は其中に起臥して居つたかと思ひます。而してその雜誌を指導して、

一代の人心を鼓舞して居つたのが、支那現代隨一の碩儒東洋のカントとも言ふべき人物である。と云うて紹介されたのが章炳麟先生である。會つて見ると洵に茫洋たる姿であります。奥底の知れない大學者でありました。當時日本の先輩政治家の中には、今日の政黨政治家のやうに眼前のことばかり考へない連中が居りました。亡くなられた犬養毅先生、今日の頭山滿先生、更に亡くなられた神輿知常先生等は實に革命黨諸君に多大の援助と同情を與へ、傍ら大いに日本青年に亞細亞思想を吹き込んで日支數年の交際を温めるに力を盡された人々であつたと思ひます。

### 孫文が抱ける大亞細亞建設の理想

私はさう云ふ機會にこれらの人々と屢々面會した。孫文氏から英語で革命主義を聞いたこともあり。孫文氏の理想はアジヤ全體を興すにあるのであります。日本人が彼に對して滿洲はどうするかと云ふやうな質問をすると、滿洲の問題なんかそんなケチな



話をするな。併し滿蒙に於て北より来るロシアの勢力を防ぎ止めるには日本の兵力を要する。否兵力だけではいかぬ。日本人の支那に對する協力を要する。そこで日本人は滿洲にはどしどし御出でなさい、御出でになるなら國境を超越した大きな心で御願ひしたい。滿洲は日本の物でもなければ支那の物でもない。アジア共通の物として開發しやうではないか。小是非、小自我を脱却して大亞細亞共通の使命の上に徹底しなければならぬと云ふ、これが孫文の理想であり、それが爲に舊支那を打破つて青年支那を造り、その支那青年と日本の青年と手を携へてアジア永遠の謀を立てると云ふのが孫文革命の目的であつたのであります。この孫文氏等の理想を基礎として亞細亞列國志士の結盟が成り立ち互に手を携へて起たねばならぬと云ふ氣分が澎湃として横溢して居つたのであります。フイリツピン獨立問題に参劔して彼の地に病歿した人に有名な大日本商業史の著者である菅沼貞風と云ふ人が居ました。其の商業史には副島種臣伯が非常の情熱を以て序文を置かれて居るのがあります。つまり亞細亞青年の間に鬱勃たる氣持が漸次に結合

せられて、自ら大勢を馴致するに至つたものであります。

凡そ物は書物の上で讀んでも餘り頭にはピンと来ない。理窟を混ぜツ返し捏ね合せて見ても、何の仕事も出来るものではない。純なる青年の頭で、書物を讀むと共に、大勢を讀み、純眞なる感情が時勢に憤激して起つに及び、始めて大事業が行はるゝものであります。青年の頭の向ひ方が、社會の必要と其の動向を同じくする時、國家は一大躍進をなすものであります。その意味に於て諸君がインド亡命の志士ボース君を招聘し、又私如き者を呼ばれてアジア問題を研究しやうと云ふ御心持は、即ち日本が滿洲問題の解決より進んで全アジア問題の解決即ちインド、フイリツピン、海峽植民地、南洋、シヤム安南等總てを合せたる大アジアの解決へと進み行く前提として私は欣懷に堪えないのであります。

私共はさう云ふ關係で支那の青年と大いに接近した。第一革命——これは明治の末年から大正元年へかけての事です。第一革命が勃發した時私共は何も分らなかつたが、



この革命を援くべしと稱して仕込杖などを持つて支那に押渡つたのであります。其際には高等學校の學生なども大分眞剣になつて出掛けたのもありました。それらの連中の中には役に立つた人間も居れば邪魔になつた人間も居ります。併ながら出かけた方では漢陽に武昌に南京に砲聲の轟く所、彈丸の飛び交ふ下を潜つて、一塵支那の革命に力を注いでやつた積りで居つたのであります。これが支那と日本が互に歩み寄つて東洋に對して解放を要求した當時の足並であります。然るに其の足並が亂れて來た。その亂れて來た第一の責任は日本も辭することは出來ない。第一革命の時には孫文、黃興等皆日本の後援を切望した。然るに日本の青年、日本の志士は革命に共鳴し之を後援したが、政府は一向之に就て徹底した態度を取ることが出來なかつた。それ故に英國の援助を受けた袁世凱の爲に第一革命は彈壓されるに至つた。それは己むを得ないとしてその後袁世凱の帝政が失敗し北方に官僚政府が出來、南方は革命黨の淵藪となつて對立するに至つた。その最中に起つたのが歐洲大戦争であります。

### 大戦争發當時に於ける我外交の失敗

歐洲大戦争が始まると時の大隈内閣は外務省の意見通りに戦争の結果を觀測し、この戦争はイギリスが直ちに勝ち、ドイツが直ぐ潰れてしまふと考へた。そこで早くイギリスの味方をしてドイツを叩き付ける仲間に加はつて置かぬと馬鹿な目を見る。須らく戦争に参加して青島に兵を出し、あはよくばドイツが支那に有して居た權利を繼承すべし。これが外務省の情報を信じたる大隈内閣の外交方針であつて、突如として山東に砲門を開いたのである。日本政府は日英同盟の大義に依て戦端を開くのだと云ふと、當の英國の方ではマア待てと云ふて承知しない。待てと云はれて日本の政府は狼狽し、どうか戦争に参加させて下さい。獨逸を極東より追拂ふが膠州灣は後日支那に還付する。乃ち山東をドイツより奪ひ之を支那に還すの目的を以て大戦争に参加すると斯う云ふ證文をイギリスに入れてしまつた。さう云ふ證文を入れる位ならばイギリスから言はれない先に



支那に向つて入れ、ばよかつたのである。支那と手を携へて山東省からドイツを驅逐する。さうしてアジア共通のアスピレイションにより、大戦當時の外交に乗り出すのが本筋であつたのである。然るに最初から英國に證文を取られ、英國をして支那に恩を賣るの端緒を開かした。私はこれが大戦争外交の第一着手の第一失敗であると信じて居ります。私は歐洲戦争に突如として日本が参加することには最初から反對でありました。それならどうすれば宜しいか、曰く日本は日本独自の聲明を發して、極東の地歩を確保すべきであつた。イギリスはドイツを罵つて人道の敵だと言ふ、ドイツはイギリスを評して世界の偽善者であると言ふ。日本はその正邪曲直を判決すべき審判官たるべき資格もなければそれ程の餘力もない。唯々英佛獨逸を中心とした戦争が歐洲に燃え起つて全世界に廣がらんとする際、日本は戦争そのものが人類の慘禍なると思ふが故に希はくはその戦争の速やかに終結せんことを希望する。己むを得ずして戦はれるならば、日本は成るべくその戦線の擴大せざらんことを希望する。就ては日本の勢力の及ぶ限りに於

て隣接諸國と共にこの戦争の禍中より遠ざかることが即ち人道である。乃ち斯の如き趣旨を聲明して、極東の大勢を制すべしと云ふのが私の議論でありました。私は其際さう云ふ議論を新聞にも雑誌にも發表したことがある。私は今日に至つてもさう考へますがあの歐洲大戦争の時に日本がアジアの天地に立ちて其の嚴正なる立場を死守し、今私が申したやうな聲明書に基いて列國を率いて居つたならば、インドも動き、フィリッピンも動き、安南も動き、シヤムも、支那も悉く動いて、今日喧しく唱へられて居るアジアの解放などは、當時既に端緒を得て居つたであらうと確信するのであります。

私は大戦争中まだドイツの軍艦エムデンがインド洋に於て暴れて居る眞つ最中に英國に押し渡りました。その時シンガポールに立寄りますと、印度兵銃殺事件の話でもち切つて居ります。曰く、つい一ヶ月ばかり前のことであつた。インドの兵隊がシンガポールに迄輸送されて来て、更にこれから戦争に参加せしめるが爲に送り出されやうとしたのであつた。さうすると之に對してインド兵が英國の手先となつて何の爲に闘ふ必要が



あるかと騒ぎ立ち兵營に動亂が起つた。その兵營の中に居るインド兵は武器を持って居ない。その武器を持たないインド兵を英國の兵隊が襲撃してヒツ捕へ、街路の並木に於てこれを銃殺した。其の跡は此處であると云ふやうな話である。インドのシロンに寄りますと日本人が来たと言ふので、スキを見ては青年達が訪れて来る、その訪ねて来た青年達にドイツを膺懲せよなど云ふ聲色を使ふ者は一人もない。この機會に及んでインドは獨立の爲に起たなければならぬと皆言つて居つた。あのスエズ運河を通る時にもエジプトの青年がやつて来て、イギリス政府のエジプト彈壓の情勢を説いて居た。吾々の目に觸れる所のものは皆白人から虐げられたアジャ人の慘狀であり、到る處の寄港地で、接する者、見る者悉く亞細亞はこの機會に起つべきであると言はぬ者はなかつた。ボース君に對する英國政府の追求は非常なものであつて、日本の官憲は英國官憲の要求に屈し、遂にボース君を日本國外に放逐することになつたのであります。曾て英國は倫敦を以て世界亡命客の安住地なるを誇つたが、其の英國が、東京にボース君を安住さ

せることに異議を唱へ、日本の官憲は之に屈從したのであります。併もボース君を何處に送り出すかと云へば、英國の希望通りに上海經由の船で送り還さねばならないのであります。ボース君の船が上海に寄港すれば、英國官憲が之を上海で逮捕するのは當然である。さうすればボース君の生命は喪はれて仕舞ふのである。そこでボース君は頭山先生の處に行つて急を訴へた。頭山さんはお前はこの家から出ることは相成らんと云つてボース君を留め置いた。警察でも狙ひはつけたが、頭山邸に踏み込むこともならず、それつきりボース君は消え失せたのであります。或人が頭山先生に向ひ、そんなことをなさると法律に背きます縛られますと云ふと、頭山翁は俺は法律と云ふやつが嫌いでね。第一憲法と云ふのが俺の嫌いな伊藤(公)が書いたのだらう。それから細かい法律となる議員共が作るのぢやないか。俺はそんな法律なんぞには關係しないぞと言はれた随分亂暴な話であるが、飾らぬ言葉の中に國法を超越して、アジャ永遠の爲に縛られても構はないと云ふ、あの老人の意氣が現はれて居て洵に偉いものがあるではありませんか。



然るにそれから大分年月を経過しましたが、今後の問題は印度である。青年諸君はインドを中心とし、大アジヤを基礎として世界の前に如何に日本民族を躍動せしむべきかを、現實の問題として取扱はねばならぬ。これこそ、諸君の熱情を傾倒するに足るべき大問題ではありませんか。

### アメリカ・モンロー主義と其の歴史

諸君日本の立脚地は大アジヤである。私は之を基礎として、よい意味に於ける、美しい意味に於ける、大アジヤモンロー主義を聲明すべきであると信じて居る。モンロー主義など、云ふ言葉は舶來語だから氣に入らないと云ふ人があるかも知れぬ。併しモンロー主義と云ふのは今では外交上の慣用語となつて居りまして、一の的確なる意味を表現するやうになつて居ります。

モンロー主義は御承知の通り千八百二十三年十二月アメリカの大統領モンローが議會

の教書中に聲明した主義である。その言葉は忘れましたが事情は斯うである。南米に於けるラテン・アメリカ諸國がスペインの統治に反對して、すん／＼革命を起して獨立する。スペインを初めヨーロッパの舊主權はこの西半球に向つてすん／＼壓迫を加へる。アメリカはこれらのラテン・アメリカ諸國、中米、メキシコ、これらの國々と共に同じ西半球に國を成して居る關係上、仲間の中の選ばれたる先輩となつて、歐洲の手を南北中米大陸より排除するの任に當らうと決心した。

そこでモンローは歐洲の制度組織そのものを南北中米に持つて來て貰ひたくない。如何なる國が如何なる名目を以てし如何なる情勢の下に於てするに係らず、南北中米に對して歐洲列國が手を出して干渉がましい事をするならば、それはアメリカ合衆國に對して非友誼的態度を執るものなりと斷定し、之に對して決意を有するものであると云ふ意味を聲明したのであります。これが即ちモンロー主義である。當時のモンロー主義はビユーリタンの祖先より受けつぎしプロテスタント・スピリットが過分に人心を支配して



居た時代のアメリカ魂を發揮したものであります。

ヨーロッパ諸國から虐げられた南北中米大陸諸國を歐洲專制の手から解放しやう、そのリーダーになつてその責任を取る。責任を執るばかりでなく、身を挺して之を實行すると云ふのが即ちアメリカのモンロー主義であります。當時のアメリカは海軍に於てイギリスと問題にならぬ程弱く、陸軍に於ても到底歐洲大陸諸國の敵でない程貧弱であつたのであります。然るに若し歐洲列國が南北中米に向つて手を下すならば、アメリカは決して之を容赦しないと、こう云ふ大膽な聲明は武力だけで出来る聲明ではない。これは全く當時世界に動きつゝある人心にアツピールするものがあつたからであります。正義には由來敵なし、當年のアメリカ合衆國にして斯くも大膽なる聲明を發し、格別敵も受けず、反對も受けず、すら／＼と世界の前に之を承認させるに至つたのは、時代精神の動向を察し得たからであります。

さう云ふやうに最初のモンロー主義は中々上品なものであつた。そこで最初はラテン。

アメリカ諸國南北中米諸國はアメリカのモンロー主義を頼つて、彼を指導者として、その義侠心の下に自立の計を立てねばならぬと考へたのであります。然るにアメリカ合衆國は、その聲明により一先づ歐洲の手をアメリカから斥けると、今度は自ら墮落して來たのであります。

畢竟今迄は解放する爲のモンロー主義であつたのが、今度は侵略する爲のモンロー主義となつたのであります。さうして段々手を延ばしてコロンビヤとか、ニカラグアとかパナマとか、メキシコ、カリビヤン州の諸島だとかを漸次に侵略してしまつたのであります。是に於てアメリカのモンロー主義は一種の帝國主義に變化してしまつたのであります。このアメリカのモンロー主義に對しては、ラテン・アメリカ諸國は口を極めて反對せざるものはない。例へば國際聯盟が初めて條約となる時に、パリに於て南米諸國から出て居つた各代表は口を極めてこの國際聯盟成立と同時に、アメリカのモンロー主義を解消せしむべきものであると云ふことを大いに力説したのであります。例へばパリ



一の議和會議の眞つ最中に、南米から出て居つたカンチロと云ふ人が大演説をやつて國際聯盟は第十條に於て現存する國家の領土權と政治權の確立を認め、その侵略を禁じて居る。即ち此の一般的原则が確立すれば、南米中米諸國の領土に對する侵略は禁ぜられる譯である。さうすればモンロー主義なんかは其中に包含せらるゝから、之を抹殺しても宜いではないかと云ふ演説をやりましたが、列國の使節は其の卒直なる主張に耳を聳てたのであります。

### アメリカ・モンロー主義の帝國主義化

然るに巴里の空氣は米國の重壓に屈し、モンロー主義は國際聯盟規約が成立しても依然として存在するのみならず、聯盟規約中に其の有効なるを確認させたのであります。即ち國際聯盟の第二十一條にはモンロー主義の確立を成文的に登記したのであります。そこで南米諸國の主張は絶対に否定せられ、アメリカはモンロー主義を國際聯盟をして

承認せしめたのであります。その後チリ國のサンチャゴで汎米會議が開かれた時に會商せる列國は合衆國に對してモンロー主義の意義如何を質問し、その定義を確立せんことを要求しました。處が合衆國は空囈いて曰く、モンロー主義はアメリカの聲明であるアメリカが單獨に宣言し、アメリカがその責任を有つて居る。この宣言の註釋を諸君に問はるゝ、必要はない。諸君の前に註釋を決定することはモンロー主義の註釋に就て諸君の拘束を受けることになる。左様なことは御免を被りたいと突き放して居ります。矢張り強いて天下の世の中であります。斯くて米國は立派に世界の前に立ちては國際聯盟規約第二十一條に於てモンロー主義を認めしめ、南米諸國に對してはアメリカのモンロー主義はアメリカ獨自の宣言であり、此の趣旨の認定は米國の自由であると云ふ主張を貫徹したのであります。言ひ換へればアメリカは自己の欲すること、信すること、必要なりと思ふことを何時如何なる時に於ても、中央アメリカ、南北アメリカ諸國の上に實施して俾る處なしと云ふ原則を白晝公然世界の前に確立してしまつたのであります。隨分亂



暴でせう。必要ならば南米諸國を占領してアメリカが併合してもヨーロッパは指一本指すことは出来ない。而して米國は南北中米に亘り、自己の認定により無限の優越權をもつのであります。

即ちアメリカのモンロー主義は最初は南北中米諸國を解放する爲にやつたのであるが今でははつきりアメリカの帝國主義を南北中米諸國の上に及ぼすことを主張し、その地域には他をして指一本でも指させないと云ふことに變つて來たのであります。加之米國は新大陸を自己の優越權の下に鎖しながら、アジアに向つても、アメリカ一流の干渉を逞しうしやうと云ふのが今日のやり口であります。さうしてアメリカがこんな行き方をするのを國際聯盟諸國は承認して居ります。

### 英國一流のモンロー主義

イギリスはそれなら、如何なる態度を執つたかと云へば、田中内閣の時に出來たクロ

ツグ不戰條約締結の際、英國は之に加盟しましたが、最後に留保條項を宣言して、「政治上の目的の爲に武力を行使せずと云ふ不戰條約は結構であるが、英國は英國の有する利害の緊密なる地域に於ては、この不戰條約の適用を留保するものである」と云ふ聲明を發し、之を公文書の上に明記して居るのであります。その聲明をなした時に質問する者があつて、英國の密接なる利害關係を有する特殊の地域に於てとは、それは的確に云へば如何なる地域のことであるかと訊きますと、これはアングロ・サクソンの流儀と見えまして、俺の聲明した、その聲明の註釋をお前達に訊かれる必要はない。英國が自ら必要なりと認定した地域であると空囀いた。その物の言ひかたがアメリカとよく似て居る俺の聲明した主義方針の註釋をお前達から訊きたゞされて答辯を與へるなら、それは俺の責任をお前達に分つことになる。俺が聲明したことは俺が解釋するから、お前達は心配せぬがよいと。随分偉い議論の仕方があります。諸君ヨーロッパ人に議論するなら、須らく此方法を取つて以て用ふべきであります。自分で勝手なことを放言し



て置いて、俺が言つたことは俺が知つて居ると云ふのであります。日本人も舶來物が好きであるなら、或る場合にはこんな物の言ひかたも眞似して見たらよからうと思ひます。そこでアメリカにはアメリカのモンロー主義がありますが、英國がその利害緊密なる地域に於て不戰條約の適用を留保したのは、これ又英國一流のモンロー主義であります併も此の英國モンロー主義適用の地域は頗る廣大でありまして、英國の認定する隨意の場所であると云ふことになつて居ります。印度は固よりその地域でありませう。埃及もさうでありませう。この頃イギリスはチベットに兵を入れて居る。英國は勿論不戰條約適用の留保區域なりと主張するのでありませう。

國際聯盟ではあれ程滿洲問題で日本を非難しましたが、其の露々たる議論の眞つ最中に英國は平氣でチベットに兵を入れた。英國は滿洲國の出現に伴ひて、必然起るべき印度國境の不安を豫期し、之に備ふべく西藏に進出したのである。日本が一大英断を以て北は黒龍江に西は興安嶺に進出した以上、ロシアは東洋に對して野心を遂げることは到

底出來なくなつた。畢竟滿洲國の出現によりてロシアは東洋より叩き出される。叩き出されたロシアは其の方向を轉じてインドの國境に現はねばならぬ。即ちロシアは極東に於ける日本との對立を止めて、中央アジア及びインドの國境に於て、英國と對抗すべき勢である。此の勢を見て取つた英國は先んじて手を打たなければならぬと云ふので、自己の認定して必要なりと信ずる地域——チベットに向つて忽ち兵を入れ、又新疆にも兵を入れて印度の外廓を作つたのである。既にインド國境に於てロシアに對抗すべく英國の戦線が展開し始めたと思ふのが今日の實狀である。老いたりとも雖も流石にイギリスは外交國である。なさなければならぬと云ふ環境をはつきり認識して、大膽に動く處は取つて以て學ぶべきであると思ふ。斯くの如くイギリスも一種のモンロー主義を有つて居りアメリカもモンロー主義を有して居る。然るに日本だけは亞細亞の足元に於てモンロー主義を持たない。否持たないばかりか、逆モンロー主義に束縛されて居る。



## 講和會議に於ける我外交團の態度

諸君、先に申し上げたやうに歐洲大戦争の時には我國は英米の希望する所を重んじ英國の爲には日本の艦隊まで出動させた程である。だからして當時の原内閣では、歐洲大戦の結果パリ講和會議では、大に列國に支持して貰えると思つて居た。あれ位聯合諸國に加勢したのだからパリに行けば、日本の使節は、うんと歓迎されるであらう。そして、一代の榮譽を施すだらう。就ては我が黨の前總裁たる西園寺公爵に出て頂くに限る。此の日本の前代未聞の大榮譽を擔はせる爲に西園寺さんを送つた。原内閣はパリ講和會議の空氣があれほどまでに荒れ狂ふとは夢にも思はなかつた。そこで日本の使節は正に殿様行列で巴里に押し渡り、彼地ではホテル・プリストルと云ふ特別上等のホテルを獨占した。一日××達が馬鹿に高い聲で大議論をやつて居る。何の議論かと云へば外務省のお歴々が××さんの部屋は日向むきで暖かいが、××さんのは蔭で寒いから石

炭を餘計燃やさなければならぬ。と云ふかと思へば、いや左様なことは決して××さんの御希望でないと云ふ連中が居る。これが大議論の種である。

諸君、外交官試験をパスした上流役人が外交に參與すると云ふのは嘘である。外交とは國事である。そんな事など一寸も考へる興味さへ持つて居ないで、石炭の焚き方とか、ペンの拭き方とか、そんなことばつかり研究して居るのが日本の外交官である。大名行列の隨員たちは巴里の大旋風をホテル・プリストルに避難して、こんなくたらない事を言ひ争つて居つた間にパリーの空氣は益々荒れ狂つて來た。最初英米の提携は巴里を重歴して居たが、有名なクレマンソーが英米の提携を腕力で引き離し、フランスの腕を一本其の間に打込んだ。其の奮闘の際にクレマンソーは街頭で兇漢に狙撃に遭つた。然るに所謂虎のクレマンソーは七發の弾丸を喰つた儘、從容として一日も國務を見ることが止めなかつた。之に比較して日本の外交官達は何をして居つたか。彼等は毎日會議の席上に於て、列國使節の顔色ばかりを窺つて居た。やれ今日はウイルソンの威



情が非常に悪かつたとか、やれ今日はクレマンソーが日本の使節を睨みつけたとか。それが彼等の心配であり、話題である。何ぞ計らんウイルソンは無愛嬌な面癖で滅多に笑はないのが持前である。クレマンソーに至りては顧盼虎の如く、視れば睨むが如く見ゆるは彼の虎たる所以である。こんな調子でパリ講和會議は、最初から英米の露國氣的壓迫の前に日本は腰をおつてしまつたのである。此方では譽められる心算で、出ていつた巴里會議で、何故こんなに叱られねばならなかつたか。抑々日本は、大戦争に對する最初の第一から踏みあやまつたからである。日本は自ら輕卒に大戦に参加したばかりでなく、無分別にも支那を參戰仲間引すりこんだ。然るに當然日本と手を携ふべき南方支那の革命派即ちヤングチャイナは參戰反對であつた。然るにアメリカは歐洲大戦に參加すると共に其の勢を、支那に加へて、其の參戰を促がした。何故促がしたかと云へば、支那を歐洲大戦の參加國の一員として置けば、後日支那を講和會議の席上に列せしむることが出来る。乃ちその席に於て日本と一緒に裁判してやらうと云ふ下心でありま

す。さうすると支那の北方政府の連中が參戰大賛成である。何故賛成であるかと云へば戦争に参加すれば參戰借款を外國に仰ぐことが出来る。曹汝霖、陸宗輿等がその中心である。彼等は戰津に参加して金を借り其のコミッションを取りて政治上の權力を伸ばさうと云ふのであります。然るに日本政府は遂に米國と歩調を共にし支那を強要して參戰せしむるに至つたのであります。之に對し南方の革命派は徹底的に反對である。時の政府が參戰借款をやつてその金で彼等の私腹を肥し、支那新興の青年を壓迫するからである。然るに日本は舊勢力と醜關係を結んで、參戰借款に應じた。寺内さんと云ふ軍人政治家が其の責任者である、さうして寺内さんを擔いだ西原君の暗中飛躍で、有名な西原借款は成立したのである。さうして日本は惜しい金を三億ばかり支那に口へで放り込んだ。それを取つて私財を貯へ、ヤング・チャイナを彈壓したのが北方の政府者流で、南方の連中は怨を呑み牙を磨いてこの報復の機會を待つたのであります。是に於てか大戦終了後、パリに乗込んで行つたのは南方革命の志士である。王正廷



でも顧維鈞でも割合にオツチヨコチヨイであるが、英語が巧いから舞臺に出たのでありまして、其背後には日本と俱に天を戴かざらんとするヤング・チャイナが控えて居たのである。斯くしてパリ講和會議の席上に於てヤング・チャイナが投げた言論の爆弾は實に物凄いなものであつた。之に接して吃驚仰天したのが日本の先輩外交官であります。彼等は元來褒められる積りで、一代の名譽を擔ふ積りで来て居つたのに、思ひがけなく、眼の前に爆弾が破裂したのである。さて彼等の言ふことを聞くに、日本は極東のドイツである。列國が歐洲にてドイツを成敗して居る際に、極東でドイツの二の舞をやつたのが日本であると。それは實に驚々たる非難であります。ヨーロッパ人は元來弱い者に對して強い癖があります。日本の使節等が之に對して斷乎として應戰すればよかつたが何もやらないから益々形勢は強化したのである。思ひ出しても滑稽ですが、涙の出るやうな滑稽ですが、一日日本の全權が悄氣返つてしまつて居る。さうして言ふには一日中クレマンソーが日本に對して甚だ御機嫌が悪かつた。虎のやうな顔をして議長席から何

度も何度も吾々を睨んだと云ふのであります。妙なことがあるものだと思つて聞いて見るにそれはとんだ感違ひであつた。濠洲の代表にヒューズと云ふのがありまして、彼はホンの労働者の出身であります。何十年か前テームス河の河畔をぶら／＼歩きながら、途方に暮れて死んで仕舞はうか、濠洲に渡らうかと迷つた末、遂に死ぬのを止めて濠洲に行き、出世して總理大臣になつたのであります。労働者出身で且と云ふ發音が出来ないで、平氣で片言を連發する。誠に豪快にして偉い總理大臣である。それが會議の席上で我儘勝手なことを言つて日本のことを意味暗に言ふ。クレマンソーは議長であるが、フランスはあの大犠牲を拂ひながら、會議に出席するのはたつた一國だけの資格である。然るにイギリスは屬領諸國迄も一國並に講和會議に出席せしめ、我儘勝手な議論を言ひ募らせて居る。それがクレマンソーの癪に障つて居るのであります。彼はヒューズが余り傍若無人に生意氣なことを言ふから、日本にも何か言はないかと目配せして居るのであります。生憎その顔が虎見たやうに怖いからクレマンソーが睨んだと云つて急に



情氣返つてしまつたのが日本の外交人であります。こんな悲劇喜劇の中で講和會議は日本に取り、實に馬鹿げた結果に終りましたが、その原因は何處から出發したかと云へば日本は歐洲大戰を機會に須らく支那の人心を凌り立て、インドの希望を容れ、エジプト青年の志に感激し、スエズ以東を提げて起つと云ふ大アジア的方針を立てねばならなかつたのです。然るに彼等の渴仰する所を一蹴して、逆に英米の手先となり、吾々に希望を寄せて居つたアジア諸民族を裏切つて、彼等を壓迫する重壓となつたことが、日本の外交をしてパリに蹉跌せしめし、根本原因であると謂はれねばなりません。

### 英米・外交と日本當局

日本はパリーの講和會議で散々苦められ、孤影悄然として歸つて來ましたが、列國はそれで以て容赦しません。彼等は矢つぎ早に又々日本をワシントンに引出しました。日本の使節がボンヤリとワシントンに出て行くとそこで又英米に押つ被せられたのであり

ます。乃ち主力艦隊は英米の十に對する日本の六に押しつけられた。山東省は英米の威嚇により、アメリカのヒューズと英國のバルフォアの手で、之を日本から奪ひて支那に還附せしめられた。そこで支那人はアメリカの壓迫を感謝して日本の意氣地無しを輕蔑した。

次に日英同盟の破棄、英米の握手、萬事英米の欲するが如く問題は解決した。問題が片附いてしまへば急に優しくなるのが彼等英米大國の流儀である。彼等は急に顔色を和らげて曰く、總ての問題は順調に片付いてしまつた。こうなつた以上は虛心坦懷に萬事徹底的にやりませう。もう國交を危うするやうな問題は一つも残つて居りませぬ。東洋は本當に平和になつた。そこで東洋の平和を永續せしむべく、此上に根本原則を確立しやうじやありませんか。乃ち支那の領土保全、門戶開放、機會均等、極めて平凡であるが之を取りきめやうではないかと切り出さるゝと、それはよいことである、結構なことであると、一も二もなく日本が承認したのであります。そこで彼等は曰く宜しい、日本



とアメリカ、英國の三國だけで條約を作つて見ても十分でない。就てはフランス、イタリー、オランダ、ベルギー、ポルトガル等を参加せしめ、支那と共に九ヶ國條約を結びませうと。こう云ふ話がトク／＼進んで知らぬ間に日本を抑へる逆モンロー主義が出来てしまつた。私は當時自分の持つて居た東方時論の全紙を費やして之を攻撃して曰く、英米の御意旨は洵に結構である。門戸開放、領土權の尊重これ位よいものはない。そんなよいものを支那だけに適用しなくても宜しい。フリツピンにも南米にもインドにもエジプトにも全部適用したらどうだ、太平洋の此方側の岸だけにするのは余り勿體ないから、メキシコにも、カリフォルニアにもやりなさい。之を東洋だけにやるのは差別的の遣方で宜しくない、當時の政府はそんなことには絶対に耳を藉さないで、さつさと判を捺して仕舞つたのであります。その結果滿蒙を合せた支那の全地域に於て門戸開放、機會均等、領土權尊重、現状維持の原則が確立され、我國の有せし優越權は抹殺せられ、石井ランシング協約も廢棄せられてしまつたのであります。否優越權どころか、日本は

ワシントン會議の結果、逆モンロー主義の桎梏に縛られてしまつたのであります。メキシコに於けるアメリカのモンロー主義、インド、埃及は固よりチベットに迄及ぶ英國のモンロー主義、然るに東洋に於ては日本を束縛する逆モンロー主義の確立、これ迄やられたのがワシントン會議であります。さうしてその壓迫の下にすん／＼押されて行つた。其後支那が日本に對して排日的態度を取り、どし／＼強く出て來たのは、實は支那人が強くなつたのではない。支那は日本と英米とを見較べて日本の輕きを知つたのであります。乃ち英米に頼みさへすれば東洋に於て日本を壓迫してくれる。其英米の手先となつてさへ居れば支那は大丈夫だと打算したのであります。英米の援助に依つて山東を取返し得べくんば、もう少し英米の援助に依れば滿鐵も旅順も大連も取り返せぬことはない。滿鐵には並行線を架け、大連に對抗する爲には葫蘆島の築港を行ひ、その並行線、包圍線を延長して葫蘆島の築港と結び付ければ、大連の繁榮を奪ひ滿鐵の繁榮を奪ふのは譯はない。この遣方は支那の排日と云はんよりは、東洋に於ける英米の日本壓迫である。



此の勢は加速度を加へてすんく進んで来た。その前に膝を屈して、朝に一城を割き、夕に一縣を割き、放つて置けば、歴史ある滿蒙を一寸刻みに段々取られさうになつたのがかの所謂協調外交であります。

長袖者流 共に兵を談ずるに足らず

私は民政黨に所屬して居りましたが、幣原外交には最初から絶対に反対でありました。若槻内閣の當時、一昨年九月十八日滿洲事件の勃發した時の體態らくはどうであつたか。私はあの際、根本をしつかり認識せしめて、くだらない國際法とか、法令とかを矢鱈に勉強したつて、人間を賢くしないと云ふことをまざしく見せ付けられた。あの滿洲事件が勃發した時南陸軍大臣が閣議で之を報告すると、一番眞先に異議を唱へたのが幣原外務大臣であります。曰く陛下の勅裁を仰がすして皇軍を動かしたのは大權干犯であると民政黨の外の大臣達は外交の事など考へた事もなからうが、幣原君がさう云ふから大方

さうであらうと云ふ位の調子である。そこで大權干犯論は閣議の大勢を壓し、南陸相は立場に困つてしまつた。その席に於て最後に發言したのが安達内相である。曰く「俺は法律論は玄人でないが滿洲には獨立守備隊と云ふ日本の軍隊が居る。そして鐵道守備の任に當つて居る。その鐵道を守備して居る軍隊の前で支那の正規兵が鐵道を破壊したならば、陛下の勅裁を仰ぐ暇がなくても鐵道守備の職責上鐵砲を撃つのは當り前ではあるまいか、現に問題が起つて滿洲全體が火事になつて居る時に、形式論に囚はれて、大權干犯論もあるまいでないか」と常識的に言つたのが安達内務大臣だけであつた。其他の大臣達は前衛既に砲火を交へて居るのに、長袖者流兵を談ずるの體態であつた。それ位にパツリ講和會議以來英米の壓迫は常習となり、日本の政治家は慢性的に足腰も立たない程屈從して居つたのであります。

さう云ふ不自然なる紐帯が日本を縛つて居つた。併しその日本を縛つた紐帯は何時の間に腐つて居つた。大和民族は縛られたまゝ着々成長して遂に朽れ繩をブチ切つてしま



つた。即ち成長しつゝ、ある大和民族の身體は、歐米式の廣れ細れを持つて永久に繁く能はずと云ふことを歐米人に容認せしめたのが九月十八日の事件である。

私は本庄將軍は固より、板垣參謀、石原參謀等の當時の決意に就て、よく話を聴きました。あの人達は餘程しつかりして居る。私は學問の要と云ふものは煩雜なる問題を圓くして簡明直截なる結論に達するにあると思ふ。私は學問をして徒らに多岐多端に亘り、こゝぞとシツカリした所を把握することが出来ないのが、恐らく今日の日本の通弊ではないかと思つて居る。煩雜より簡明に到達する。これは支那の王陽明學でもさう言つて居る。私は王陽明を擔ぐ譯ではないが、知行合一、知つたことを行つて初めて知ることが出来る。私はそこだと思ふが、日本の外務省の諸先輩、大政治家、學者さう云ふ連中よりは軍服を着て滿洲の廣野に曝されて居る中佐、大佐級の石原、板垣君達の方がほんとの修養が出来て居たやうに思はれる。眼の前に滿洲の鐵道が破壊された場合に、右するか、左するかと云ふことを、どんと響いた其の刹那、チャンと決めてしま

つて疑はない。この修養こそは大切である。この煩雜なる問題に直面して簡明なる結論に到達し得たのは、矢張り日本は武國で、武人に本當の日本人の本領が存在して居つたと思ふ。

長袖者流、共に兵を談ずるに足らずと云ふことは保元、平治の亂以來決つて居る。私は徒らに軍人を謳歌するのではない。修養を語つて居るのである。青年諸君はスポーツもやれば柔道、擊劍もやる、どうです飛込んで一本打込む時の心境は大事に當つた時に必要ではありませんか。大事に當りて持ち合せの魂がなく書物を開けて大權干犯など、云つて居つては駄目である。その研究は平常に於てなすべきであつて、事に當つては肚の底から滲み出て来る熱血の命するが儘に動かなければ青年らしいことは出来ない。即ち日本を束縛したる處の諸國際條約は、日本生育の壓力で切れてしまつたのである。其の衝に當つたのが關東軍の中堅である。九月十八日の正當防衛より、更に進んで自衛權の展開による諸要地の占據、之に引續いて一大決心を要したのは東支鐵道を北に越す



か越さないかのそれであつた。之を越したらどうなるか、そこは又々議論があつた。日本々國の政府では最後迄越さない論であつたが、それをさつさと超したのが關東軍の青年將校である。チ、ハル、ハルビン、滿洲里、興安嶺、黑龍江迄カレコレ言ひ争つて居る間に行つてしまつた。その後は口頭の議論である。國際聯盟で何と云はふがそんなことは空論であつて、現實に日本軍は黑龍江沿岸に行き、興安嶺を超えて滿洲里迄行つてしまつて居る。生命を賭したる帝國の軍隊は武力で打ちのめすに非ざれば聯盟の議論では断じて退かないと示ふことは犯す可らざる當然たる事實である。

### 滿洲問題は既決事項だ、第二段に進め

私は松岡君に直接聞きませぬが、松岡君はゼネヴァで氣を吐いて後、正月休みに伊太利に行きムツソリーニに會ひ、ゼネヴァに於ける會議の情勢を説き、日本の決意と列國の不合理なることを説いたさうである。さうするとムツソリーニは答へて曰うた。貴君

は聯盟でそんな話をなさるのか、聯盟でそんな事を言へば聯盟は反對するにきまつて居ますよ。日本は東洋でやつてのけだのでしやう。そんな事に反對するやうに出來てるのが聯盟の建前です。併し貴君は聯盟の建前などには頓着なく、欲する通りに進まれたのでないか。其の揚句聯盟に出かけて来て、俺がやつた事は正當だと承認してくれと言ふても無理ですよ。聯盟はそんな事に反對する爲に専門家を揃へてゐるでないか。日本はやる丈の事をやつた。聯盟は言ふ丈の事を言ふ。それで宜しいでないかと、ムツソリーニは餘程徹底して居ります。即ち日本は誤まれる國際聯盟に對し、言論よりは實行に於て九月十八日事件をブツ、ケたのである。日本は既に出來あがつた足元を踏みしめて、次の事を考へねばならぬ。もう黑龍江、興安嶺を國境として滿洲國は出來てしまつた。興安嶺を超えて日本の軍隊は滿洲里に迄行つて居る。

### ロシアの蘇は極東から印度國境に



滿洲里に相對するはロシアのチタである。チタと滿洲里の間にはゴビの砂漠の延長が入り込んで来て居る。孫子の兵法には斯う云ふ地域のことを圯地と云つて居る。圯地は入るべからず、入つた方が破れるにきまつて居る。チタから滿洲里を攻めやうとすればゴビの砂漠の延長を超して來ねばならぬ。其の砂漠は行軍も困難であり、兵糧、彈藥等の運搬は一層困難である。彼等が此難を冒してブツ、カルのが滿洲里である。滿洲里は後に興安嶺を控へてこの天險に據つて戦ふことが出来る。攻撃軍は前には進まねば後には逃げられず、總敗滅となる虞がある。この圯地は入る可らず、誤つて入つたら早く脱出しなければならぬのが定石である。こんな危い所には誰も來られるものでない。専門家に聞けば若しロシアに賢い將軍があれば、日露開戦と共に其軍をイルクーツク迄引揚げる外はない。最も露西亞は北を迂廻してウラチオに出ることは出来るが、滿洲里の中腹に短刀を擬せられて居ては危険で仕方がない。

ロシアは中々のした、か者でイギリスと同様に現實を認識するに大膽である。彼等は東洋ではもういかなないと云ふこの形勢を見て取つて居るから、先般來熱心に不可侵條約の締結を切望して居る。此の形勢を利用し、我國はロシアをして取りも直さず、滿洲國を承認せしめるがよい。滿洲國を承認せしめ、東支鐵道を買収し、日露の係争案件を一掃して、そこで極東を固めやうと云ふのが吾々の主張である。半年ばかり前に吾々がこの議論をした時には非難罵々たるものがあつたが、今や日本の方針は大體それに決つたやうである。

ロシアは東洋から叩き出されたから、西に向つてバミール高原、ヒンズークシを超えてインドに行くべき運命に置かれて居る。之に對抗するのが英國の苦心である。

英國人は印度民衆の反抗に對して辯解する時には、きまりきつたやうに英國政府の印度に於ける鐵道政策を吹聴する。曰く。英國はインド民衆の幸福の爲に何哩の鐵道を架け、これ丈の幸福を増進したと。最近のタイムス特輯なども盛んに之を書き立て、居りますが、併しその鐵道は海岸から北方國境に至る軍用鐵道ばかりである。それは北よ



り来るロシアの勢力に對抗する戦略上のものに外ならない。英國は北より来るロシアが怖くて仕方がない。そのロシアを極東から叩き出して、英國と印度國境に對峙せしむることが日本の爲に上策だと思ふ。ロシアも東方をおきらぬ滿洲國に對する野心を放棄するのみならず、新張から長江筋に手出しをすることなど、一切やめるがよい。

日滿經濟プロツクの急務

ロンドンで經濟會議が開かれたが巧く行きませんでした。今度のルーズヴェルトは往年のウイルソンと同様に歐洲の外交には必ず失敗する。屹度佛蘭西其他の列國に逆捻を食ふであらう英國はアメリカの招きに應じて立ち、成るべく協調するやうな顔をして居るが、彼は惻巧者であるから決して米國の言ふ通りに、佛蘭西の言ふ通りにもならない。彼は言論よりは實行を重んじ、オッタワ會議の決定を其儘に英國及び屬領植民地を連ねた大英帝國經濟プロツクの完成を急ぐであらう。現に其の尖端は日本に向つて差し

向けられ、遂に日印通商條約を破棄するに至つた。彼は既に四月十日の日印通商條約の破棄により、日本に對し經濟的に宣戰したのである。彼は日本の抗議如何に係らず、自己の進むべき道を進むであらう。かくて大英帝國經濟プロツクが出来れば、之と對立すべきフランスの歐洲大陸經濟プロツクが出来、更にドイツを中心とする北歐洲經濟プロツク、ロシアを中心とするソヴイエット經濟プロツク、アメリカを中心とする汎アメリカ經濟プロツクが成立し、此等の超大陸帝國は各々その廣大なる地域に割據し、内部に於てのみ自由貿易、互惠通商を行ひ、外に對しては高率關稅を設定して原料と市場を壟斷し、經濟的に武装して其の對立を尖鋭化すべきは必然の勢であります。

そこで日本も斯の如き環境の下、手の届く範圍に於て朝鮮、滿洲等を打つて一九とせる經濟プロツクを完成し、之に立脚して歐米の經濟プロツクに對抗するより外に自衛の途はないのであります。さうすれば日本は外から如何なる壓迫を受けてもさう困ることはない、地圖を見て御覽なさい。我日本は北は千島樺太から南は琉球臺灣に至る群島



より成立して居ります。而して此大日本群島はアジャ大陸外面に横たはる天成の、海上の、萬里の長城である。日本帝國海軍の力を之に注げば、此群島とアジャ大陸との間にある海は御庭の泉水と同様になり、日本は立派に大陸を封鎖するのであります。而して四百餘州の支那の物資、シベリヤ沿海州の物資は水の高さより低きに付くが如く、盡く海岸に送り出され、豊富なる物資は泉水の對岸に山積さるのであります。然るに日本が此の亞細亞の物資の出口を制すべき海上の萬里の長城を固めてしまへば、山積せる物資は全く出口を封鎖せられて仕舞ひ、歐洲にも、アメリカにも、南洋にも通ずることとは出来ず、其儘そこに置き腐れとなるの外はないのであります。どうせ實の持ち腐れとなる位なら、手近にある日本が之を善用するより外に道はない。歐洲列國がプロツク對立を激化して、日本を經濟的にボイコットするなら、日本は此の天然の地形を活用して、亞細亞大陸の封鎖を行ふの自由を有するのであります。

### 最後の戦線印度を死守する老英國

更に其の上の問題になつて来るのはインドであります。イギリスのウオードと云ふ博物學者は随分各地を旅行し、東洋の事情に通じ、科學に立脚し學問的に民族興亡の跡を論じて居りますが、彼は卒直にもう英國はアジャを断念しなければなるまいと言ふて居ります。

會て世界の工場だと言つて居つた英國は、英國自身の工場ですらあり得なくなつた。英國は自己の實情に目ざめて、分相應のことをやるがよい。一體東洋に香港を有し、そこに東洋艦隊の根據地を置いて居るが、既に威海衛を還附し、六年前な支那の暴徒から脅かされて漢口の租界を還し、鎮江の租界を還してしまつた英國は、東洋艦隊で何を守るのであるかと言ふて居ります。更に英國は滿洲國の出現に依て滿洲國領域内に於ける税關を取られてしまつた。又英國の甚だ重要視した京奉線は滿洲國內に架設せられたる



部分を日本に取られてしまつた。胡蘆島の築港を以て、大連の繁榮を奪はんとした計畫も、滿洲國の新鐵道政策の爲に水泡に歸せられてしまつた。然らば英國は東洋に於て守るべき何物をも持たぬでないか。それなら香港を領有することは全く無意義である。英國は香港より兵備を撤退してシンガポールに退き、シンガポール、インド、濠洲を固めればそれが萬全の策である。フランスやアメリカが英國を援助せず、英國が日本の壓迫に喘いで居るのを傍觀して居る位ならば、イギリスはシンガポールに退却するの外はない。さうするとその脅威を受けるものはシヤム、安南、インド支那、それからフィリッピンである。イギリスはシンガポールを守りさへすれば宜しいと。斯う云ふのが英國の一部に動きつゝある議論であります。

英國はもう東洋から撤退するが宜しい。國際慣例を無視して、突如として日印條約を破棄する位なら日本側からも英國に對し東洋の立退きを交渉してもよい筈である。ロシヤはトルクシブ鐵道に沿ひ、或はバミール高原を超え、或はヒンヅークシを横切り北方

から印度を脅威して居る。其上印度は海上から日本の脅威を受ける、之をシンガポールで防ぎ止めるのが關の山である。

ウオードの如き博物學者が見て居る處では、支那は海岸に於て日本と衝突して遂に沿岸地帯を撤退して中央アジアに竄入する。兩國に聰明なる政治家があれば、支那は日本の勢力を受け容れ、日本の好意を受け容れ、援助を受けて西に向つて進む。雲南から直ぐ隣はビルマである。支那とインドとはビルマで交錯して居る。ビルマはインドから隔離した特殊地域を成し、曾て支那の領土であつた時代がある。此地に勢力を有するは雲南人である。斯う云ふ情勢になつて居りますから、人類學よりして民族興亡の歴史を見ますと雲南、シヤム、ベルシヤ、ビルマ、マレイ等これら一つになつて一ブロックを形成するは、最も自然の成り行きであります。斯くなれば英國が如何にインドをシンガポールに於て死守せんとしても、ビルマ方面の陸上より來るアジアの勢力を防止することは頗る困難となつて來るのであります。況んや、鐵道が唯一の交通機關であつたのは



過去の夢でありまして、これから段々自動車を用ひられ、更に航空路が普遍的に開拓されるれば、中央アジア各地に飛行場や自備車の中継所が續々出来、此の新交通経路に伴ふ小都市がアジアの各地に點在するやうになると、大陸の接近は案外容易となるのであります。その時に於て、ボース君の御話のやうに、英國がその變り行く世界の情勢を知らず、徒らにインドの關稅を高くして、民衆の生活に重壓を加へ、以てプロツク形成の大業成れりなど考へたら、大變の了見違ひであります。英國はツイこの間も前後二回に直り五割も關稅率を引上げたのみならず、恣に日印通商條約を破棄してしまつたが、之は英斷と云ふより妄斷であり、狼狽であると思ひます。英國は稱してインド産業の保護なりと云ふ、併し印度の實業家さへも陳情書を發表して之に反抗して居るでないか。彼等は曰く、英國ランカシャの製造工業は既に保守を超えて老朽してしまつて居る。その結果世界の有ゆる市場に於て競争力を失ひて退敗しつゝある。英國は此の老朽製造工業品をインドに向つて集中させる積りらしい。而もインド人が此の高價なる老朽製品を

欲せず、安價にして良好なる日本品に手を出さうとすれば、直ちに高率關稅を課し、事實上輸入を禁止せんとして居る。これは英國品を印度人に押賣して、搾取を恣にするものである。英國人は何時も生活標準低き國民との對等の通商を拒絶せんとして居るが、其の英國人は御自慢の高い生活標準を維持せんが爲、印度人を犠牲にして、一定標準處か奴隸生活すらもなす能はざる酷い境遇に置かんとして居る。今迄はガンヂーの無抵抗非協同運動はインテリの運動であつたが、この高率關稅に依るインド民衆の搾取は總てプロレタリアの奮起を促がすであらうと言つて居ります。斯くしてインドの獨立、革命の熱は全國に澎湃たるものがあり、漸く其の危険性を激甚ならしめんとして居ります。

老英國の賣庫には既に火がついた

曾てボース君が話された有名なアムリツツナーに於けるダイヤモンド將軍虐殺事件の時、



誤つて見物人たる英國の貴婦人がソレ弾丸に的つて死んだ。インド人が殺したのではな  
いけれども、インド人の集會が原因で、英國軍隊の發砲となり、その弾丸が的つて死ん  
だのであるから、此責任はインド人にあると云ふのが變手口な英國的論理でありまして、  
英國官憲は婦人遭難の地に墓標を建て、碑文を書き、總てのインド人はこの貴婦人 對  
して謝罪すべしと宣言し、その謝罪の意を表する爲に其前を通行するインド人は皆四ツ  
ン這ひになつて通るべき規定を設けたのであります。

この四ツン這ひ條例を解してクロウリング・アクトと云ひます。クロールとは四ツに  
這ふことであります。英國官憲は野蠻にも斯う云ふ亂暴なことをやつて居ります。併し  
ながら流石に無抵抗の大家に向つて、英國軍隊が發砲し、一舉に二千七百人を殺傷した  
ことは、甚しく世界の視聽を聳動し、米國の基督教青年會など其の非を鳴らして、非人  
道を叫ぶに至つたので、英國も今度は無抵抗の大家に發砲することを禁じ、ターチーと  
云ふ棒を以つて大家を制することゝしたのであります。此棒は檉の木で長さ一丈もあり、

兩端には鐵のイガクがついて居ります。御承知の通り英國の巡査は大兵で無智で無教  
育と来て居るから叶はない。彼等が此のターチーを振ふ時それが頭に中れば頭蓋骨が割  
れて飛び、手首に中れば手首が折れて飛ぶ、實に酸鼻の極であります。此の棍棒條令を  
ターチー・チャージと言ひます。こんなヒドイ目に遇はされて居りますが、印度民衆は  
起たうとしても武器を得ることが出来ない。曩にロシアの手で西藏、新疆方面から武器  
を密輸しましたが、今は英國が此方面に手を入れて来たからどうにもならぬ。

そこで武力抗争は不可能でありますが、此環境の下に眺へ向きなのはガンヂーの運  
動であります。私はガンヂーの教義を聞きましたが、暴力に屈するは人間として非常の  
屈辱である。併ながら、自分の方では絶対に死なうと云ふ條件の下に人を殺さうとす  
る暴力行爲も高尚なことではない。一番高尚なことは精神の力に依て悪を克服するにあ  
ると云ふのである。ガンヂーは武器すら得られない印度に於て、暴力は用ひずして、最  
後の力たる精神の力を以て暴力に當ると云ふのである。暴力は用ひやうとしても用ひら



れない境遇に於て、暴力を否定せし非協同運動は誠にも上策である。そこでガンヂー一派の人々は無抵抗主義で立つて居るが、血の氣の多い者は第二の手段で行かうと云ふので、無抵抗と抵抗との手段が交錯して進むと云ふのが今日の有様であります。

或る女學校の卒業式に英國の官憲が出て來ると妙齡十五六位のインドの少女がビストルでズドンとやつた。何故やつたかと訊くと、この人に個人的の悪意はないが、英國のインド統治に反對するインド民衆の精神を昂揚する爲にやつたと、裁判に及んで辯護士を付けるると云ふと、辯護士は要りませぬ。人を殺した以上死ぬのが當り前だ。死刑にして下さいと云つた。

支那は唯物的であるから人を殺しても自分は死なないやうにやる。昔張良は千斤の鐵錘を振つて秦の始皇帝を博浪沙に要撃したとありますが詳しく歴史を讀むと自分で手を下したのではない。力士を雇つて來てやらして居る。處がインドの方は宗教的である。人を殺す時には自分も死ぬ氣でやる。死ぬ氣でかゝる者ほど恐ろしいものはない。

近頃外務省筋や、實業家筋の宣傳によると、印度の大衆に期待することは無意義だと言つて居ります。彼等は曰く、インド人は逆も駄目だ、支那人よりも駄目である。もうガンヂーの國民運動もスツカリ駄目になつたと、支那人より善いか悪いかは別として、支那と異つたる宗教的、精神的の抵抗がインドではある。現に國事犯を以てガンヂー派のみでも牢屋に居る者が六萬人、婦人の牢屋に入つて居る者が二千七百人あると云はれて居ります。そこに英國が經濟プロツク完成を目標とし高關稅によりて日本よりの輸入を禁止し、英國の粗悪なる商品を無理に賣付けてインドに對する搾取を高度化する。之が原因となり、日本がインドに對する報復手段として印棉の不買同盟を強行するとなれば、インドの棉花の輸出は止つてしまひ、棉價大暴落となり、印度に於ける棉花の生産大衆は困つてしまふ。斯の如き大衆生活の窮迫より來るその憤りは何處に行くか、私は英國がさう久しきに亘つてインドに於て旨いことをやることは出來ないと思ふ。日本のジャーナリズムが僅かの宣傳にかゝつて、印度大衆の無力を宣傳して居る際に、英國の



新聞紙は毎號印度の不穩を問題とし、警察官は命がけだと言つて居る。

斯くて大亞細亞の盟主へ

私共の指導原理はまだ墮落しない前の本來のモンロー主義を以てインドを解放し、埃及を解放し、安南を、シヤムを解放すべしと云ふにある。滿洲は既に之を英米の侵略を解放して自由の國とした。朝鮮ももう少し向上せしめ本當に兄弟になれるやうに誘導せねばならぬ。吾々が呼び掛けんとする世界政策は、虐げられたる各民族を、我が日本精神に依り、武力に依り、經濟力に依りて、解放し、育成し、相互解して白人專制の前に起ちあがることにある。而して此等諸民族の動向を支配し、その盟主となることが日本外交の根本原理である。手の届く所からコソ／＼泥棒して侵略しやうと云ふやうなケチな考では、世界の大本日本帝國となることは不可能である。

田中義一大將は大正十一年フイリツピンに行つてウッド將軍に面會した。其際田中大

將はウッド將軍に向つて言つた。アメリカがフイリツピンを永久に領有することは結構だ。若しフイリツピンが獨立すれば、朝鮮や滿洲の統治が日本としてやり難くなるから困ると。斯う云ふことがモンカドーと云ふフイリツピンの志士が書いた書物に載つて居ります。之が事實とすれば田中大將の思想と今日の滿蒙に躍動しつゝある國軍の精神とは根本的に違つて居ります。それだけ日本の外交方針のイデオロギイが進展したのである。關東軍の中心となつて働いた石原中佐があつた事件の後に、大阪の朝日か毎日か主宰した座談會ではつきり言つて居る言葉は、田中さんのそれと正反對であります。石原中佐は曰く、我々は必ず滿洲國を本當のものにする。出来るならば滿鐵の租界も附屬地も滿洲國に還してしまつて、滿洲國を完全なものに育てあげねばならぬ。斯くて彼等をして裏心より日本に信頼せしめ、相携へて起つことが日本の國策でなければならぬと。日本の大方針はフイリツピンをアメリカが壓迫して居るやうに、露洲や朝鮮を壓迫しやうと云ふのではない。フイリツピンをアメリカの手より解放せよ、滿洲を軍閥の手より



解放せよ、朝鮮を北方侵略者の手より解放せよ、而して茲に虐げられたる朝鮮、滿洲を自由にし、安樂にし、此の實情を世界の前に提示して、印度に呼びかけ、安南に呼びかけ、埃及に呼びかけ、菲立賓に呼びかけることが、帝國外交の根本方針でなければならぬ。

即ち大アジャに立つ日本は、アジャの土地を取るに非ずして、アジャの人心を取るにある。愚かなる人心は之を啓發する。歪められたる人心は之を叩き直す。而して眞面目なる人心を振ひ奮して、之を把握せねばならぬ。心を取りて以て人を取る。人を取りて以て共に協力し、アジャの土地を支配すると云ふのが大日本精神の根幹であります。

## 強力政治の檄

此の稿末尾に於いて國務院の創設を提唱して居るが、その後同志と意見を交換し、國家改進黨綱領第二政治綱領の改定中に此の意味を換骨脱胎して一項目を設くるに至つた。案より異巧同曲である。

正義は強力なくして遂行することは出来ぬ。強力は聰明によりて武装せられねばならぬ。強力は正義を骨髄となし、聰明を指針とする。不正に對して彼れを取るが如き柔弱なる正義は、夫れ自身正義の冒瀆である。正義は斷じて勝たねばならぬ、勝つべく強力であり、聰明でなければならぬ。



政治の使命は社會に正義を布くにある。平常無事の時に當り既設の正義社會を情勢的に維持するのならば、政治の働きは消極的であつて、比較的強力を要しない。然るに現今の如く國際社會にも國內社會にも、標準となるべき正義の觀念が確立せられず、暴力に脅やかされ、煽動に惑はされ、慣習に囚はれ、幻影に魅せられ、錯綜昏迷して歸一する所を知らざるが如き場合には政治の働きは非常に積極的でないならぬ。今日の政治は外に國際正義を検討し、内に社會正義を確立し、之を把握し、——遂行し、顯揚せねばならぬ。これが爲には障礙を除去し、反對を排撃し、因襲を脱却し、輕薄を一掃し、頑迷を克服せねばならぬ。乃ちそこに非常の強力と決意と聰明とを要すること萬々である。

二

國際社會には米國を前衛とする歐米の實力が、最も強く我國に働きかけて居る。又半

面に於て露西亞を聖地なりとする迷信が、思想を通じて、我社會に大なる影響を與へて居る。而して日本は極東の重荷を脊負ひながら、辛くも難局を支へて居る。此時に於て我國の國際に對する政治方針は正義を信條とせねばならぬ。其の正義を發見するには、理想の明鑑を掲げて、國際の真相を照らさねばならぬ。今日の國際政治は觀念論ではいかぬ、御都合主義ではならぬ。世界の迷妄を啓きて國際的良心に訴へ、強力と聰明とを以て正義を遂行せねばならぬ。

純理を以て論ずる時、日光と空氣と地球とは、世界人類の共用に附すべきものである。然るに白人は科學を武器として地球の表面を優先的に分配した。固より獨占者相互の間にも、優劣大小ありて、幾多の不平不満を醸成して居るが、大體より觀察して、白人の優越は地上の實在である。彼等は其の優越を維持し、繁榮を永續せんが爲、幾多の國際條約を締結し、之を金科玉條として現存する秩序を糊づけにせんとして居る。然るに現存する秩序は歴史上の暴力優先権を背景として定められたものであつて、毫も人類間の



公平を基準とし、正義を規範として樹立されたものでない。そこで現状を固執せんとすることは、暴力優先権を神聖視し、後進者に向つて一切の機会を鎖さんとするものである。正義公平の原則に反して居る。白人は環球の表面支配権を地域的に獨占したが、知識を科學を徳操を向上心を、永久に獨占することは出来なかつた。後進國民衆の自覚は徐々に向心上心に拍車を加へ、國際的支配と國際的反抗との間に非常の不安を生ずるに至つた。此の不安を除去せんと欲せば、國際的不安の原因たる國際的不公平にメスを入れねばならぬ。硬化せる國際秩序に、軟弱性を附與して、優先支配に代るべき正義支配の進路を疏通せねばならぬ。諸多の國際平和條約が現存する秩序の鐵則であるならば、此の鐵則を再吟味し、再検討し、之を可能的國際情勢に適應すべく、其の適用若しくは内容を是正せねばならぬ。斯くて、國際正義の再建を行はねばならぬ。

我國の如きは白人優先支配の國際に伍して、甚だしき缺乏と不便と屈辱とを滿喫した。日本民族の本格的向上力は絶えず白人支配の縛縛に抵抗して、徐々に身邊の自由を開

拓したが、それが正義の欽求であり、公平の獲得であり、世界人類の良心に惹ふるものであると云ふ明確なる意識は、我國先輩政治家の頭腦中に存在しなかつた。彼等は皆な白人優先支配の遺物たる自由主義的現狀維持論に陶醉し、國際協調のオブラードに包まれたる毒藥を嚥下し、男性的勇猛心を去勢せられ、一言でも白人專制の聖典を批判することは、償ひ難き罪惡なるかに思ひこんで居た。巴里講和會議、華盛頓會議、倫敦會議は如實にそれを立證してゐる。此の無自覺狀態は昭和六年九月十八日、滿洲事變勃發の當日まで、日本の先輩政治家を支配した。彼等は一人として我が關東軍の自衛行動に對し、道義的意識の存在を確認することが出来なかつた。然るに我國民の本能的衝動は、自然のまゝに激發して、熱烈に關東軍を後援した。これ實に誤れる國際慣習に對する國民本能の反逆である。先輩政治家が失神狀態より恢復して、徐ろに國民本能の動向に其の妥當性を發見したのは、滿洲問題が本質的に決定してしまつた後の事である。然るに今は既に矢は弦を離れて、滿洲國の建國と共に、極東全面の動搖となつた。世界列國は



此の深き根柢より發せる、動搖に對して、認識を誤り、相變らず白人專制の經典を振り翳して、表面を糊塗せんとして居る。ジュネイヴに巴里に華盛頓に、盛んに引用強調せられつゝあるものは、國際聯盟規約であり、九ヶ國條約であり、不戰條約である。然るに彼等が神聖視する此等の諸條約は、過去の實力折衝の産物であり、情實の排列であり、墮落の妥協であつて、眞に恒久平和を保障すべき正義の基準ではない。聯盟規約は米國のモンロー主義を承認し、不戰條約は所謂英國モンロー主義の宣言を認容して居るに係らず、九ヶ國條約は一層當然なるべき滿蒙に於ける日本の優越權を否定して居る。これ實に甚しき矛盾である。此の眼前の矛盾は一刻の猶豫もなく、直ちに之を矯正せねばならぬ。我國として聯盟規約、九ヶ國條約、不戰條約の根本を貫くべき平和の眞原則を掲げ、此等諸條約の各條章を再吟味して、其の適用若しくは内容の純化を要求せねばならぬ。それは優先的專制諸國よりすれば、外交界の一大革命とも見らるゝであらう。併し外交上の革命は巴里條約締結後、事實上成し崩しに諸處に行はれて居る。滿

蒙に於ては我が政治家の意識を俟たずして、自然の壓力が既に革命の口火を切つてしまつた。今こそは我が日本を指導する政治家が、國際正義の認識を鞏固にして意識的に實際に喚びかくべき好機會である。

リベラリズムに陶醉し、既成條約のオブラードに包まれたる毒藥を服用し続け、事の真相に徹底せずして、表面の粉飾に幻惑されて居るのなら、強力も要らねば、聰明も要らぬ。然るに日本は最早やそれでは凌がれなくなつた。此儘に行けば萎微するか、頽廢するか、崩壊するかの外なきに至つた。幸なるかな國民の本能的向上力は、腐朽せる國際慣習の舊紐帯を絶ち切つて、事實上我國をして國際革命の尖端に躍らせて居る。是に於てか之を意識化し、之を高調し、之を遂行するには、國際正義に對する眞の認識と、之を遂行すべき眞の決意と、聰明と打算と強力政治とが、絶對に必要である。聰明は以て國際の認識を是正せねばならぬ。強力は以て人類の爲に正義を興さねばならぬ。



三

滿蒙に對する不合理なる國際統制は、現地に於ける民衆生活の自然的發育と相容れざるに至つた。是に於てか何等政治家の意識と計畫とに俟たずして、滿蒙大衆は獨自的に支那より分離し、現に滿洲新國家の建設を見るに至つた。此の變動期に處して、我が關東軍の強力は、能く日本の可能的發展力を極東の地域に保障するを得しめた。併し今後的重要問題を解決して、我日本の使命を全うするの任務は、單に軍隊の力のみならず實に強力なる政治の力に俟たねばならぬ。

滿洲事變勃發以來、若槻内閣、犬養内閣、齋藤内閣は、無自覺の儘、國民本能の激發にヒツ駆けられたのである。ヒツ駆けられるとは馬術上の俗語であつて、鞍上の人が鞍下の馬を制御する能はず、馬は痲痺を恣にして、奔放飄逸止まる所を知らざるを謂ふのである。日本の最高政治機關たる内閣が、關東軍の自衛的行動にヒツ駆けられて、首

尾相照應するの外交手段に出で得ざりしは、政治の無力を暴露するものである。内閣は天皇の下、唯一の政治中心機關である。外に内に日本の最高意思を奉體執行すべきものである。それが軍國の行動を裏書して、堂々世界の迷妄を啓くの舉に出づる能はずとせば、日本政府は外に對して無力卑屈なりと謂はねばならぬ。それが滿洲に於ける一切の難問題を……、敢て之を後援せず、敢て之が責任を取らず、助言もせず、制肘もせず、命令もせざるに於ては、……無力無責任なりと謂はざるを得ぬ。一國の政府が外に對して卑屈であり、内に對して無力であつては、到底此の非常時の難局に當ることが出来ぬ。

今日我國の國際的立場は、恰かもサドワの一戦に打ち勝つた後の普魯西に髣髴たるものがある。國內にハチ切れんばかりに横溢せる國民の發展力は、必ず其の吐け口を求めて進出せねばならぬ。併し現代日本は往年の新興帝國と異り、隣人の災とならずして、世界の進運に寄與するが如く、國運發展の方向を決定せねばならぬ。サドワの一戦に打



ち勝ちたる普魯西は國論取勝に酔ひて沸騰し、立ちどころに維納に迫り、直ちに全埃太利を蹂躪せんことを要望した。軍部の如きは意氣天に冲して、騎虎の勢ひ止まる所を知らざるの概があつた。此時に當り大宰相ビスマルクは此の國論と此の國軍とを駕御して周到なる國家的打算に歸一せしむる所以を知つて居た。彼れは強き軍部の意向に對抗し身邊の危難を冒して急に廟議を纏め、直ちに軍を遣して埃太利と和を結んだ。彼れは今日の所謂軟弱外交に墮したのではない。彼の強硬外交は歐洲大陸の覇者佛蘭西を目標として、精密なる壯圖を描くにあつて、同民族たる埃太利を終生の敵となすが如きケチな量見に支配せられなかつた。普魯西の爲には一たび埃太利を挫きて獨逸聯邦の覇權を把り、次に獨逸世界政策の筋骨に則りて、佛蘭西に當ることが、其の國力を發展せしむる所以であり、當時に於ける外交上の正義觀念にも合致して居た。帝國主義であるも、之を成功せしむるには、ビスマルク宰相の打算とモルトケ將軍の計畫とが必要であつた。普魯西は埃太利と和するの後、露西亞と結び伊太利を誘ひ、英國と親しみ、完全

に佛蘭西を孤立せしめて、靜かに必然の機會を待たつた。普魯西に相反する態度は佛蘭西のそれであつた。ビスマルク、モルトケに悲惨なる對象となるはナポレオン三世及びマクMahon將軍である。彼等は決意なき野心、打算なき欲求、本質なき虚榮に魅せられて居た。而して無責任なるジャーナリズムと、計画的なる煽動演説も、與つて國策を支配するに力あつた。普魯西の外交は決意を蔵する自制であつたが、佛蘭西の外交は準備なき虚誇であつた。乃ち一たび戦端の開かるゝや、ビスマルク、モルトケのチーム・ワークは着々として圖に當り、普魯西の常勝軍は時計の針の刻むが如く正確に巴里に迫つた。遂にマクMahonは敗滅し、ナポレオンは投降し、光榮ある獨逸皇帝の即位式は、敵國巴里の宮殿に於て施行せらるゝに至つた。普魯西の成功は強力政治が外交を軍事を輿論を、統一指導せしが爲である。佛蘭西の敗北は無力政府が或は外交上の虚榮に陶酔し、或は輿論の煽動に幻惑せられし結果である。固より普魯西にビスマルクありしが如く、佛蘭西にもチニールがあつて、周到なる打算と鞏固なる意思とを有して居た。